

に小なるものと斷ず可きである。其小なる危険——而も日本に取つては少くとも今日迄は、殆んど何等の危険とはなつて居らなかつたものが滅ぼされたとして、更らに更らに大なる危険たる資本的侵略主義の魔道に陥るならば何にもならないことである。我輩があらゆる機會に於て資本的侵略主義の危険を絶叫して同胞の猛省を促す所以實に之が爲めである。願くは讀者我輩を以つて正體なき幽靈に怖れて妄言を繰返すものとなす勿れ。

附言。畏友室伏君の一月號の『中央公論』に於て我輩の所説の骨子は獨逸學者のモイリッポ  
ンと云ふ人の『ミューンヘナーノイエステナハリヒテン』に掲げた論文と同じであると言は  
れた。我輩は不幸にして右新聞を手にする事が出来ぬから、ボンの所説如何を知らない  
が、室伏君教ふる如くんば甚だ愉快なことである。ボンはミューンヘン大學教授兼高等商業  
學校長で、米國へ交換教授として招聘されたことのある人である。我輩に取つては氏は同  
窓英遊の學友で、滯獨中の最親友常に往來した人である。開戦以來全く音信を通ずるを得  
ないを憾として居たが、今室伏君の仲介によつて間接に消息を得るは、實に會心のこ  
とで此の點深く室伏君の博識に敬服すると共に、其の親切を感謝せざるを得ぬ。而してボ

ンは大の英國崇拜者で『タイムズ』の愛讀者である。氏は永く英國に遊び殊に愛蘭農政に就  
ては英國人さへも推して權威とする人である。其の拜英熱は終に嵩じて氏は純英國婦人  
を娶つた。故に氏が英國を特に悪様に考へることはあり得ぬことである。其のボンにし  
て吾輩の排英論と符節を合せた様に同じ説を公にするのは、偶々吾輩に何等の『プレヂ  
デイス』なきことを證するものと信ずる。吾輩は感情上英國を憎むとの評言は御訂正を  
願ふ、吾輩は感情上英國は大好きである。唯だ偽善的正義人道論を憎むのみである。

大正八年一月十八日稿同二月十一日『我等』掲載

## 二 對抗か順應か

|| 世界に於ける日本 ||

### 一 聯合國經濟協商の實何くに在る

一 聯合國經濟協商の實何くに在る

巴里に於て開かれた經濟會議の決議と云ものは、阪谷男爵が之を我邦に齎し歸つて、我邦に於ては其實行委員なるものが出来て着々として其決議の趣意に従つて各般の施設をすることになつて居る。既に敵國臣民との通信禁止といふことが實行せられたのである。我邦の立場として、此經濟會議の決議に加はるといふことは、一種の義侠的の行爲であつて、我邦自身の利益といふものを立場とすれば、此決議に加はるに依つて得る處の利益といふものは皆無である。唯だ我邦が此の決議に加はるに依て得可き處の利益といふものは、言はゞ一つの理想的精神的のものである。即ち我邦は聯合諸國を經濟上に於て助けるといふことに依つて、聯合國も亦自國の利益と衝突しない範圍に於ては、並に交戰の目的を妨げない限に於ては、我邦の經濟上の利益を尊重することを一般に認めるといふ一事に在らねばならぬと思ふ。具體的に果してどう云ふ事かは別として、主義として英佛露其の他聯合國は、我邦の經濟をも亦尊重することに依つて、彼等の經濟上の利

益を進むる、交戰の目的を達する爲には我邦の協力を購ひ得たといふことが、經濟會議の交渉の趣意であつたことと考へる。

然るに印度カウンスルピルの問題は、當面の問題として何れ解決することと思ふが、更に翻つて巴里會議以後に起つた色々の事實に付て見ても、果して今言つた趣意の聯合國の經濟協商と云ふものは、實が擧がつて居るか否かといふことを考へて見ると、我輩は大なる疑問を起さざるを得ないのである。即ち英吉利に於ける莫大小輸入禁止と云ひ、或は銅の輸入禁止と云ひ、或は濠洲に於ける羊毛輸出禁止と云ひ、悉く我邦の當面の經濟上の利益を侵害したものである。而して此の如くせざれば英吉利が其の交戰の目的を達することが出来ない、又英吉利の經濟上の利益が非常に侵害せられると云ふならば、是亦已むを得ないこととして看過しなければなるまいが、速くの日本に居て觀察する所に依れば、必ずしも此の如き極端なる禁止の主義を採らなくても、英吉利の利益が害されると云ふものでは無い。反對に之に依つて害される我邦の利益こそ頗る重大である。幸ひにも莫大小輸入の如きは間も無く取消しになつたのであるが、素人考では宛かも英吉利

が日本に對して、一つの示威運動をしたかの如く見える。英吉利にして我日本を苦めやうとならば、一令の下、一擧手一投足を以て、直ちに日本の當業者を非常な難境に陥れることは易々たるのみであるといふことは、之に依つて充分に示され得たのである。故に我國の實業家或は識者の中には是等の點から考へて、我邦は益々英吉利の歡心を損ねないやうにしないと、眞逆の時に莫大の禁止と同様なる手段を繰返されては甚だ危険であるといふ一種の事大論が行はれるかのやうに聞いて居るが、是は以ての外のことである。考へる。如何に我邦が頭を低れ膝を屈して英吉利の機嫌を取つた處が、それで以て聯合國經濟協商の實が擧がることは望まれない。是は何處までも當然の權利として尊重して貰ふと云ふ風にならなければならぬ。

## 二

茲に先づ前提として考へなければならぬ問題は、我邦が抑々對獨戰に従事した處の我邦自身の目的は何であつたか、三國干渉の怨を晴すといふ丈けならば、佛蘭西に對して

も露西亞に對しても同一なる怨がある譯だ。獨り獨逸に對して晴さなければならぬ怨みなどいふものは斷じて存せない。獨逸が膠州灣を占領して居ることが東洋平和の害となるならば、同じ筆法を以て英吉利が新嘉坡を領有して居るのも香港を領有して居るのも、東洋の平和に害が有る。露西亞が浦鹽斯德を持つて居る如きは甚だ東洋の平和に害が有ると言はなければならぬ。獨り獨逸に對して膠州灣の還付を迫るといふのは、それ相應の理由が無ければならぬのである。語を換へて言へば、獨逸が東洋に於て足溜を得るといふことは、正當の手段に依つたならば兎も角、膠州灣領有のやうな手段に依るといふとは、當面の我邦の經濟的利益に害がある。英吉利が香港や新嘉坡を領有するとは、當面の我邦經濟的利益と衝突しない。英吉利と日本とは東洋の商業場裡に於て、兩立して行くことが出来るといふ前提があるので無ければならぬ。是は箇々の問題に付て言へば必ずしもさうで無い事も有るが、先づ大體さう云ふものと假定して考へて見ると、英吉利が東洋に於ても日本と經濟上の利益を兩立せしめて行かうと云ふのならば、日本の世界貿易の上に於ける地位を常に尊重して貰はなければ困る。小さな而も貧弱な

るものに對し一たび禁令を發すれば直ちに當業者に非常な打撃を加へるやうな事を充分誠意を披いて腹藏なき協議を遂げずに頭から唯英吉利が一方的行爲で直ちに禁止するとは如何に戦時の際とは言へ餘りに亂暴な仕方と言はねばならぬ。それもどうしても取消すとの出来ない程最高必要な事であれば是れ已むを得ないとも言へるが抗議の次第に依り事情の疏通に依つては取消すとの出来るやうな莫大小禁止の如きをポカリと出す如きは如何にも傍若無人な亂暴な話と言はなければならぬ。少しも日本を與國と認めて居ると云ふ誠意を我々は看取することは出来ない。同じ問題は更に濠洲の羊毛輸出禁止に關して痛切に感ぜられる。日本が羊毛生産國で無いといふことは英吉利人は充分承知の筈であつて濠洲から羊毛の輸入が無ければ日本の羊毛工業は全く消滅に歸して了ふ外は無いと言つても宜い。又印度の棉の貿易も直接に棉の輸出を禁止した譯では無いが棉の禁止と同一の作用を有するやうなカウンスルビルの事件の如きは英吉利は印度の外に亞米利加から棉の供給が有るからと言ふかも知れぬが印度の棉無くして日本の木綿工業が成立つて行けないといふとは明かな事實である。是は些細な

品物であれば宜いが木棉といふものは多額の消費が有り又國民の生活に於て殆ど日用品とも言はる可き食料品に次で肝要な物である其を供給する側の都合で以て直ぐ杜絶すると云ふが如きは之を人道の上から言つても之を商業の道理の上から言つても恕す可からざることである。況や我邦が自國の利益といふものを殆ど眼中に置かないで經濟協商の決議に加はつて着々として之を實行しやうといふ位地にすらも進めて居る處であり又た公然英吉利を助け露西亞に軍需品を供給したり有らゆることを日本は力及ぶ丈は先以てして居る積りである。斯う云ふ國民は殆ど他國に見られない位日本國民は英吉利に忠義な人間である。日本の國家の次に英吉利の國家を始と祖國と考へる如く動もすると日本の國旗に添て英吉利の國旗を閃かして喜んで居る位人の好い國民である。此國民に對して英吉利が假令自己の必要上萬已むを得ざることゝしてもよくくで無ければ必要品の供給を困難ならしめ或は之を杜絶するといふことは慎まなければならぬ筈であるにさう云ふ様な斟酌なしに思付き次第でポン／＼禁令を發する事實さうで無いかも知れないが直に取消す處を以て見るとさう云ふ風に見える。

## 三

一體商業國としての日本の立場から言つても、工業國としての日本の立場から言つても、獨逸と戦すると云ふとは甚だ不利益である。成程獨逸の軍國主義憎む可しだが、其軍國主義の爲に我日本は今まで何等の害を被つて居らない、歐羅巴に於てこそ普魯西の軍國主義といふものが害をなして居たかも知れないが、我々日本は普魯西の軍國主義の爲に損を被らぬ、否、日本が露西亞に勝ち支那に勝ち得た處の陸軍は、獨逸の眞似をしたから出來た。是が英吉利の眞似をして居つたり佛蘭西の眞似をして居つたならば、果して日露戦役、日清戦役のやうな成績を挙げ得たか否かは分らぬ、寧ろ我々は普魯西軍國主義の餘澤を被つて居るとも害を受けて居る點は少しも無い。反對に商業國として日本の利益と動もすれば衝突し、動もすれば是から危険を恐れなければならぬのは英吉利の軍國主義である、英吉利の海軍主義である。一々具體的事實を擧げるまでも無く、一番多く日本の商業的利益が脅かされて居る反對の相手方はいふと英吉利の海軍である。

英吉利の商賣である。極端に言へば歐羅巴の地圖から獨逸といふものを省いて了ふとしても、是は日本に取つて殆ど意味を持つて居ないが、若し世界地圖から英吉利が省かれ、英吉利の商賣が世界に無くなり、英吉利の海軍が無くなれば、其部分だけは世界各國に傾つ、其大部分は亞米利加なり獨逸なりが取つて了ふかも知れないが、日本と雖も多少の分前は取られる。英吉利が占めて居る大きな利益の何分か英吉利海軍の何分かは取れる。無論我々はそんな事を希望するといふ事は無いが、若し何方かの國を潰さねばならぬと云へば、日本の利益丈けから言へば、寧ろ世界の大部分、全世界の利権の大部分を獨占して居る英吉利を無くして呉れる方が、日本の爲めには結構と思ふ。但し我々はそんな事をば毀ふのではない、各國各々立つ所以は其經濟上の利権を尊重し、獨立國たる體面を尊重して行つて、我も利すれば彼も利しつゝ充分並び立つて行けることを知つて居るかである。成程英吉利人から言へば、獨逸の勃興といふことは當面の敵であつて、之を滅すなり其力を殺ぐことは大變必要であらうが、我々から言へば、毫も其必要を感じて居らないのである。

## 四

我々が澤山の軍費を使つて獨逸と交戦したのは決して日本の利益本位から之をしたもので無い。日本の利益本位と云ふ點から言へば此戦争は初から嚴正中立した方が宜しいかも知れない。併し我々は英吉利を中心とした世界の今日の状態を以て打破すべきものとは考へて居ない。矢張り現状を維持して日本の富強を圖つて行く事が充分出来るといふ事を信じて居るからである。又向後も正さにさう信じて居る。日英同盟といふものは畢竟日本と英吉利との利益が或る點に於て衝突するものと認めても戦争にまで行くべき筈のもので無い、之を我々が忠實に守つて居るといふのは、我が彼を重んずるが如く彼も我を重んじて居る、其誠意と信用とが有るからである。然るに英吉利の爲す所を見るに、自國の持つて居る特別な地位を無用に利用して、其所謂經濟權を振廻すかの如くに考へられる。例へば敵國との通信を禁止する如き日本に取つては殆ど意味をなさぬ甚だ愚な事と言はねばならぬ。今まで既に戦争が始つてから二年有餘の間も敵

國臣民と通信禁止といふことは少しも無くても別に獨探の爲に日本が惱まされたとか、日本の秘密が利用されたといふことは無い。向後日本と獨逸と交戦行爲を交ゆべき機會は斷じて無い。然らば青島攻圍中にさへ必要で無かつた通信禁止といふことは、モウ疾くに青島が我邦に歸して了つた今日に於て之をやる必要は寸毫も無い。否、之に依つて多少我々は敵國の様子を知らうと云ふ僅かな途さへも杜絶せられて了つて、我々は全く英吉利人の許可した材料を以て、英吉利人の知らして宜いといふ事柄丈けしか知ることが出来なくなつたのである、甚だ迷惑千萬な次第である。所謂鎖國の状態に陥つて居る、是は決して日本の利益からやつたもので無い、誰が見ても分つて居る、英吉利の爲めの御奉公で、主としては英吉利の爲めにして居る。我々個人としては敵國人との通信禁止といふやうな馬鹿々々しいことは止めて貰ひたいと思ふが、併し是れは英吉利の苦しい地位を思つて居るから我慢をして居る。それといふものは畢竟英吉利が我邦の經濟上の利權に對して相當なる尊敬を拂つて呉るといふことを待望んで居るからである。然るに巴里會議が開かれて未だ間も無い今日までに頻繁に起つた處の事實は動もすると却

つて經濟協商の無い時よりも、日本の經濟權は英吉利の一舉手一投足の爲に容易く危険に曝されるというやうな有様で、危険の念を餘計深からしむる外ない。決して之に依つて安心の出來ると云ふ状態に達して居なく。

## 五

又是は他日必ず問題になることと思ふれば、共過般亞米利加から聯合國に對して講和に關する意志を尋ねた時に聯合國から答へた條件中には、我日本に關することが一つも擧げて無かつた。其條件中に到底出來ない相談みたやうな事も書いてある。例へば土耳其帝國を全然亞細亞に驅逐し去つて了ふといふ様な事は、到底出來るもので無し、世界平和の爲に何も必要で無い。白耳義や塞耳維の虐げられた人民を充分に慰めるとか、損害を賠償せしむるとか、獨逸の軍國主義の跋扈を防ぐとかいふ事は必要であるが、土耳其帝國を亞細亞へ追拂つて了ふ、そんな出來ない相談の縁も所由も無い事さへ謳つて居る。彼條項中に、東洋の方面に於る獨逸の跋扈を制限し、若くは東洋貿易の侵害を防ぐといふ

やうな事は些とも無い。要するにあの戦争は矢張り歐羅巴の戦争で、歐羅巴人の都合に依つて、其條件なるものも歐羅巴丈けに限られて居つて、歐羅巴以外のとは何も言つて無い。是はどう云ふ都合でア、云ふやうな回答をなして、其回答に日本が加はつて居るか、無論日本も承知の事であらうけれ共、例へば青島は無論の事として、日本が今一時的に占領して居る南洋諸島はどうする。未だ占領して居ないアルサス、ローレンは佛蘭西へ取るといふ事を言つて置き乍ら、現に占領して居る獨逸南洋諸島は果して今の占領者たる日本の有に歸着せしむるとか、それとも是は只だ返して了ふか譯が分らぬ。南洋諸島は經濟上の價値も餘り大で無いだらうけれ共、日本が之を占領した以上は、他日之れを土臺として、南方に於ける經營の基礎としやうといふ望があるからである。單純の感情を離れ、行掛りを別にして日本の經濟的利權といふ立場に於て、青島は支那に返して了つても、南洋諸島を日本の領土となすか、或は領土としないまでも之を日本の經濟的利權の根據とするといふとは確定して貰はなければ困るので、講和談判の時にムザ／＼之を取られるとなると、其時になつて日比谷公園で燒討をしたつて追付かない。其機會は過日の亞

米利加が發した回答の時が機會であつたらうと考へる。然るにそれが謳つて無いといふ如きは、どう云ふ消息であるか分らぬけれども、兎に角日本の經濟的利權の尊重といふことは聯合國の眼中に殆ど無いといふ事を證明して居やしないかと思ふ。我輩は決して對外硬論者或は帝國主義論者の如く無暗に領土を擴張するとか、人の隙に乗じて日本の領土を擴張するとかいふ火事場泥棒主義を考へて居る者で無い。正々堂々として取るべき物は取り、取る可らざる物は斷じて取らぬといふ主義で有つて欲しい。領土擴張主義なんといふものは御免を被りたいと考へて居るものである。併ながら既に南洋諸島は日本が占有して居る、之が爲めに若干なりと日本は現に犠牲を拂ひつゝある、其犠牲を悉く無駄にして、了ふといふことは、是は如何にも日本を無視したものと、言はなければならぬ。無論國の名譽國の體面といふものは重んずべきものであるから、英吉利と同盟國たる爲めに經濟上の利權を捨て、遂も協商に加はつて居るが、日本の爲めには何の利益の無い通信禁止、其他の義務ばかり課せられて、當さに得べき經濟上の權利は何も得て居ないといふことは、甚だ残念な事である。

## 六

歐洲戰の終結が何時になるかといふことは、神ならぬ身の豫言することは出来ないけれども、併しながら既に講和に向つての一の石は投ぜられて、一波萬波を生ぜんとしつゝある有様であつて、今日に於て既に講和の時に向つての用意はして置かねばならぬのである。扱此講和の際に方つて今日聯合國の英吉利などの政治家が公言して居ることは所謂驅引であつて、商賣國なる英吉利は戦争にも商賣根性を忘れない講和に於ても商賣根性を忘れない、餘程懸値があると見ねばならぬ。實際となるとなかく、土耳其帝國を亞細亞へ放逐することは出来ない相談で、餘程讓歩しなければならぬ。さて讓歩する時になると、人事の通則として一番抵抗力の少い處が一番先に犠牲に供せられる事は分つて居る。例へば露西亞のリスアニアは獨逸に取つて死命を制する處であるから、讓歩が出来ない、それも或は讓歩するかも知れぬが、是は餘程争ふに相違ない。又反對に獨逸の方からアルサス・ローレンを聯合國にやることは、獨逸に取て國の存亡に關する大問題で、



餘程の事があるにあらざれば譲られないに相違ない。其で御互にどう譲歩するか、歐羅巴以外の天地に於て譲られるものが有れば譲るといふことが先きになる。即ち歐羅巴に於ける領土の譲歩に對する代價として、或は白耳義のコンゴを獨逸へやるとか、獨逸は亞弗利加の領地を譲るとかいふやうに、歐羅巴以外の天地に於て成る可く決濟の出来る丈け、決濟しようとするに相違ないと思ふ。さうなると歐羅巴に於て何等の利權を持つて居ない處の日本、歐羅巴以外の天地に在る我邦は一番容易く犠牲に供せられる。而も日本は戦争の爲に大した犠牲を拂つて居ないのみならず、經濟上非常な利益を得て居るといふことは、敵味方共に知つて居るから、談判の上に於て一番抵抗力が少い當事者と看做されるに相違ない。其の時に至つて或は青島と云ひ南洋と云ひ茲に植付けた日本の經濟的利權は餘程強く之を固守しても犠牲に供され易い。況や之を固守する事が弱ければ容易く犠牲に供され得る。其ならば之に對して償金を貰ふ或は聯合國の仲間から金錢的報酬を貰ふことは、財政上此の如く非常に打撃を被つて居る間柄で到底出来ない相談、我國民は兎角鼻元思案で、眼の前へブラ下がつて來ぬと何とも言はぬ。やれポー

ツマス談判の結果が悪いといふ時に燒討をする其時に到らぬ内は考へもせぬ。直きと又忘れて了ふ南洋諸島問題の如きも殆ど忘れたかの如き有様である。併し愈々講和談判の時に不可いとなつてから地駄太踏んで騒いでも駄目だ。

## 七

之を要するに我々局外者から見ると、巴里の會議に於て出來上つた聯合國國際經濟協商といふものは、或は英吉利或は佛蘭西或は露西亞に取つてはそれ〴〵實績を擧げて居るがとも思ふけれ共、獨り我邦に取つては殆ど其實が無くして、偶々我邦へ無用なる義務を背負つて歸つて來たものと言はねばならぬ。此意味に於て我輩は阪谷男爵は意味の違ふ小村侯爵であると評したい。ポーツマス談判の時に全力を盡して出來る丈けやつて仕方が無く歸へつて來たけれ共、國民は甚だ喜ばなかつた。今度別國民は何とも思つて居ない。併し我々のやうに考へて居る者から言ふと、阪谷男爵は行かなければ宜かつた。行つた爲に通信禁止といふやうな無用な鎖國的主張に盲従されねばならぬやう

になつた。さりとて互に取るべき利権は其秘密事項として何が有るか知れぬが公然現はれた處では何も取れて居ない。さうして巴里會議の終らぬ内に莫大小禁止銅の輸入禁止、蘇州羊毛輸出禁止、今度は印度のカウンスルビルの問題等と云ふ風に續々起つて來て居る。必ずしも我輩が考へるほどではないかも知れないが、我々何も利害關係を持つて居ない者から見ると、實に馬鹿々々しくて若し自分の事なら到底我慢して居られない。自ら賢明なる政治家が居つて、我輩が考へるやうな馬鹿なことにはなつて居らぬと思へば安心されるやうなもの、現にカウンスルビルの問題で農商務大臣と大藏大臣とは丸んで逃つたことを言つて、どつちを信用して宜いか分らぬ位な出鱈目な有様になつて居ると云ふ事は果して我邦が賢明なりしか當局者が我々の見る如く賢明であるかどうか疑はざるを得ない。民間の實業家などはどう云ふ事を言つて居るか、矢張りどうも御座なりの事ばかり言つて日露協約が成立つてソラ提燈行列だと騒ぐ、却つて之が爲にペトログラードでは悪感情を惹起したとさへ言はれて居る。我々から見ると極めてオツチヨコチヨイな鼻元思案の事しかやつて居ないやうに考へる。

他方亞米利加に對する關係は、或一派の論者が考へる程とは思はれないけれども、餘程戒心を加へなければならぬと思ふ。日本が歐洲の戦争の御蔭で大變な利益を得たといふことは、何れも他國から羨まれる的になつたことであるが、其羨んで居る中で以て一番深き猜疑の眼を以て見て居るものは、怒らく亞米利加であらうと思はれる。其亞米利加と日本とが衝突する如き事は、經濟上から言つたら斷然有る可からざることであつて、此意味に於て我々は極端な平和論者である。亞米利加とは餘程な堪へられない事が有る迄は敵對關係に立つべきで無い。出来る丈けの讓歩をしなければならぬのであるが、讓歩しないで日米の感情をモット和らげて行くことを大に努めなければならぬと思ふ、殊に移民問題の解決が未だ懸案となつて居ることを忘れてはならぬ。表面上親善の關係は少しも侵されて居ないやうだが事實は國民と國民との間に經濟的疎通が進んで居るかといふと、我輩は却つて反對になつて居やしないかと考へて居る。聯合國へ深く加擔する事は妨げなしとしても、亞米利加との關係を拙くする事になつたならば、是非は非常に損な取引をしたものと言はれなければならぬ。日本は經濟上の立場から考へれば、他の總

てを敵として戦つても、獨り亞米利加を敵として戦つてはならぬと云ふ事を深く我國民は覺悟しなければならぬ。獨逸は無論の話、其他どの國としても己むを得ざる時には干戈の間に見えても仕方が無いが獨り米國と敵對状態に陥る事は、日本に取つて經濟上殆ど死を意味するといふ事を戒告したいと思ふのである。

以上我輩の述べた處は無論一片の杞憂に過ぎないと思ふし、又さうであることを希望するけれども其嫌ひが有りとするならば、やれ政黨政治の超然内閣のと言つて國內限りの小さい問題にのみ没頭して居ないで、少しは眼を放つて世界に於ける日本の地位殊に日本の經濟上の地位に付て、識者は考へて呉れて欲しいものと思ふのである。

|| 大正六年二月『實業の世界』掲載 ||

## 二 愚に重ぬるに愚

英國の道具に使はれて我邦が段々戰敗國のお附合ひをするの愚なるは公平なる識者の一様に認むる所であつて、我々如き世外の人間に至るまで憂慮を禁じ能はず折に觸れて論じた所である。然るに近日に至つて此の愚を更に重ぬる愚が演ぜられんとするを聞くに慨嘆に堪へない次第である。其は他事ではない。支那を聯合國に誘ひ入れる代價として其關稅引上げの提議に我邦が同意すべしとの一事是れである。

## 二

英國は自國の都合さへ宜ければ他の聯合國は勿論中立國の全部をも飽迄利用せんと決心して居るものと見える。希臘に對する壓迫の如き『小國の保護保全』を金看板とする國としては到底許す可からざる曲事であるのに、今やお芋の煮えたも御存じなき體の支那をまで引すり込まんとし、而も其代價は専ら同盟國たる我日本の懷から立替へて支

拂はしめやうとして居る。蟲の善き加減傍若無人の振舞實に言語に絶して居る。

支那自らの爲めに考へて聯合國に加擔することが果して何程の利益ある可きやは容易に決定し得られない問題である。我邦の國是は支那をして出来る丈け自力を以て自國を整理せしめ獨立國の實を充實せしむるに力を藉す外はない。此支那にして雜魚の魚交りのに聯合國に加入することは果して支那自らの爲めになるか否か大に疑ふ可きである。支那は左様な餘計な眞似をする餘裕を有する國ではない。一切の力を盡くして自國の内政の整理に従事す可き状態に於てある。外國とは何の國に對しても事を構へず眞に嚴正中立を守つて國際間の紛争に加入せず退いて自力の充實を圖ることが支那の急務たることは我日本は十分に諒解し又た同情して居る可き筈と思ふ。但し支那は獨立國であるから支那自ら發意して聯合國に加はるとなれば我邦として敢て之を妨ぐ可き權能も義務も有して居らぬことは勿論である。其政治家の爲す儘に任す可きである。寺内内閣が支那内政不干渉を聲言したに對し我々心ある者が衷心から賛服したのは全く此道理を認めるからである。内政干渉の非なるが如く我邦に關係なき支那の

外政に干渉することも亦非たる可き譯である。内政には干渉せぬ外交には干渉すると云ふのでは一向徹底した方針とは云へぬ。

直接間接に我邦の利益に影響を及ぼす可き事に就ては其の内政たると外政たるとを問はず我邦は友邦として誠實なる忠言を支那に呈することを怠つてはならぬと共に我邦の利益と交渉なき事は一に全く支那の自治自裁を尊重することを一貫の方針とし之によつて我邦に毫も野心なく誠心誠意に支那の誘掖のみを以て我念とすることを支那の官民に十分知悉して貰ふ様に務めること、是れ寺内内閣の對支方針と我々は解釋したのである。其れでないならば支那内政不干渉とは例の高遠なる理想家一流の瞞着辭と同一視する外はない。

## 三

我邦は政治上に於て飽く迄獨立國たる支那の『プレスチヂ』を尊重して些かにても之を傷くる嫌あることは一切之を捨つると共に、日支親善は紙上の空言でないことを示

す爲めには、經濟上に於て愈々益々支那に接近せねばならぬ。支那になきもの我之を併し、我に缺くもの支那之を與ふることを經濟上に於て勉めねばならぬ。我々は此目的の爲めには支那と關稅上の協商を進めて、支那の産物を極めて低き關稅を以て我邦に引取ると共に、我工業品にして支那に缺く所のものに對しては、更に關稅の輕減若くは全廢を實現せねばならぬと思ふものである。極端に云へば、滿洲を支那に返へしても日支關稅同盟の實現せられ更に進んで日支幣制同盟の實現せられ得ることならば其は我邦の利にして同時に支那の利たる可きを思ふものである。

## 四

然るに其方針には一步をも進むこと能はずして、今や却て聯合國加入と云ふ我邦に取つて何等の重要なき事の爲めに、支那關稅の引上げに同意せんとの説ありと聞くは實に意外千萬である。聯合國加入が支那の爲めに利益ある可きや否や甚だ疑はしきのみならず、我邦に取りては殆んど何等の重要を有せざることば多言を須たざる所である。

我邦すら聯合國加入の利益を享くること殆んどなきに、後れ馳せに而も何等の軍事上の意味なき支那の加入は、支那自身に何の利益を齎らす可きか。支那の當局者は之を知る故に別に其代價を求めて關稅引上げ、償金帳消しを要求したので、此點は一も二もなく英國の提灯持を甘受した我邦の賢明なる政治家よりも、支那の政治家の方が國に忠なるものと言はねばならぬ。

然るに英國は自ら其代價を支拂ふことなく我日本をして之を支拂はしめ、我紡績業の大打撃を以て其代價たらしめんとするのである。若しも支那引入れが我邦に利益あることならば紡績業の犠牲或は已むを得ざるかも知れぬが、我邦は支那の加入に依つて何等得る所はないのである。たとひ多少得る所ありとしても、我が紡績業の利益を代價として支拂ふことは到底勘定にならぬ大損である。世の中に馬鹿々々しいとて、此の如き馬鹿々々しき事があらうか。況んや戦後の講和に方つて、支那の加入は我邦の迷惑となる可きは、今より豫見し得る所たるに於てをや。我々世外の人間と雖も到底之を默視するに忍びぬ。

莫大小の禁輸、羊毛の禁出、銅の禁入、加ふるに印度カウンスルビルの制限と云ふ如く、我邦が英國の爲めに支拂ひ、又現に支拂ひつゝある代價は實に僅少ならざるものである。然るに今や我邦のヴァイタル・インテレストたる紡織業迄も代價として提出せんとするに至つては、勘忍も程度があると絶叫せざるを得ないのである。愚に重ぬる愚とは正に此くの如きを云ふのである。醒めよ、醒めよ、拜英事大の夢。

|| 大正六年三月十五日『國民評論』掲載 ||

### 三 歐洲出兵論を排す

日本が歐洲に出兵す可きや否やの決定は、日本の問題としてのみ爲す可きである。何

故となれば我軍隊の戦ふ戦ひは世界の何れの邊に於て爲さるゝとも、其は日本の戦ひであらねばならぬからである。如何なる理由で如何なる國と戦ふとも、其れが日本軍隊のする所の戦ひである以上は、日本の爲めに日本が戦ふことであらねばならぬ。外國の爲めにする俯戦であつてはならぬ。日本の爲めにと云ふは、日本の現實的物質利益の爲めにと云ふことは斷じてない。日本が歐洲に出兵するとも、何等の物質的利益が得られなから不可なりと云ふ論も、若し出兵によつて多大の物質的利益が得られるならば、出兵敢て差支なしと云ふ論も、共に日本の戦ひの眞義を没却した愚論である俗論である。國の戦なるものは、講和の際の分配を目當てに爲す可きものでは斷じてない。左様な淺薄なる考慮は、軍隊存在の貴き意義を蹂躪するものである。戦其のものは、甚だ悲しむ可きことであるけれども、國の存在てふ重大事の爲めには、悲しむ可き事は變じて甚だ良き事となるものである。惡を化して善とし、悲しむ可きを化して喜ぶべき事とする、其一切の最高の標準は、國の爲め國の存在の爲めと云ふ一事である。此を取除くときは、戦争は、あく迄悲しむ可き事、避く可き事たるを免れないのである。されば、今日日本が歐洲に出兵し

て獨逸軍と戦ふのは、其は日本の爲めの日本の戦ひであるときのみに限る可きである。英國の爲めでも、露國の爲めでも、米國の爲めでもない。否左様あつてはならぬ。

元より我邦は聯合國の一員として重大なる義務を負ふて居る、而して我邦は力の及ぶ限り國情の許す限り此義務を盡しつゝあることは聯合與國の十分認めて居る所と信ずる。乍併日本が歐洲に出兵して獨逸と戦ふと云ふことは、軍需品の供給とか證券の引受とか云ふことゝは丸で別の事で、如何に與國たるの義務あるからとて、戦支けは外國の戦を引受ける譯には行かぬ。日本の軍隊は日本の戦をする爲に設けてあるもので、それ以外的事には一兵を動かす事も爲す可きではない。之が雇兵で一週間イクラやるから兵士になれとて募つたものなら、苦力同様何處の國の戦をやらせても善いかも知れぬが、我兵士は雇はれたものではない、我等の血管を流るゝ貴き膏血は、國民の義務として流すを要するときにのみ流す可きものである。苦力同様に使はれる爲めに、我等は我等の子弟を喜んで國家に捧げてゐるものではない。外國では日本兵の強いことを知つてゐるから今歐洲に出兵して呉れたら、日露役當時又は其以上の働きをするものと思ふかも知れ

ぬが日清、日露役に我兵の強かつたのは其は日本の爲めに日本の兵士として戦つたからである。國の爲めと云ふ一念は、懦夫をも化して勇士としたのである。其反對に國の爲めでない人の爲めに戦ふときは、勇士も化して怯夫となるであらう。英國の兵士の如く塹壕の中に居乍ら、白粉を塗つたり舞踏をやつたりしつゝ戦ふことは、日本兵の最も不得手とする所である。生命に大事ないやうにと庇ひつゝ戦ひをすることに於ては、世界中日本兵ほど不適當な兵はないと斷言して差支ないと思ふ。日本兵は妄りには戦はない、其代り戦ふときは命はないものと覺悟してかゝる。だから強いのである。命の無いものと覺悟することの出来るのは、國の爲めに戦ふと云ふ安心満足自信があるからである。其條件を缺いて居乍ら、其の如き覺悟をせよと要求しても駄目である。歐洲に出征しても同様である。出征が日本の爲めであつて、其戦が日本の戦争であるならば、我兵はあらゆる艱苦に堪へて健闘奮戦するだらうが、國の爲でなければ、風土、氣候、食物の異なる歐洲に於ては、其困難の爲めに非常な苦みを感じるに相違ない。而して之を堪へ忍ばしむべき國の爲てふ自覺が缺けて居ては、強い日本兵も或は案外な成績しかあげず、却つて世界の

迷惑を醸すかも知れぬ。否成績は之をあげ得ても、日本の勝利でなければ少しも之を譽とするに足らぬ。勳章や賜金は決して十分に酬いをなす所以でない。將校達には十分に酬があるとしても、兵士にはそれが出来ぬ。日本の兵士は勳章なく賜金なくとも我が國の爲めに戦へり、我は國の爲めに負傷したり、我は國の爲めに死したりとの自覺を以て最大の報酬と考へるのである。人の爲めにする戦争では此の報酬は全くない。

## 二

然らば我邦の出兵は我邦の爲に必要であり、歐洲の野に戦ふ戦は、凡ての意味に於て日本の戦たる可きや否や、此の解答は即ち出兵の可否を決する唯一の鎖鑰であると信ずる。論者或は曰く、此度の戦争は聯合國側にあつては、實に遠大高尚な理想から起つたものである。我邦が此理想の實現の爲めに歐洲に出兵することは、即ち我日本の爲めに戦ふ所以である。日本國の高き使命が之を必要とする戦争であると。試みに問はん、其の遠大高尚なる理想とは何であるか、聯合國が獨塊を打破するのは、世界をより善く、世界をし

て人間の住むにより善き所たらしめる所以であるか、或はウキルソン大統領の宣言にあるやうに、獨逸の國民をして獨逸の主権者から脱離せしむることが、遠大至高の理想を實現する所以であるか、予輩は斷じて否と答へる。獨塊を亡ぼしたとて、軍國主義、オートクラシー、專制政治が世界の表から消滅するものではない。更らに第二の獨逸が起る外はない。否現に今世界中最大のオートクラットはカイゼルではなく、却つてロイド・ヂョーヂである、ウキルソンである。民主主義の假面を被つて居る軍國主義は、英米に於て全勝を占めて居る。今の戦局は一面に於て軍國主義と軍國主義との衝突である。獨逸の陸軍國主義に對する英國の海軍國主義、更に近頃は其に加へて更に、悪き米國の *Pluto-cistic militarism* の争ひである。加之獨逸國民をして其皇室に叛逆せしめんとするは、我々日本人として毫も與すべき所を見ない、否我日本人に之を應用されるときは、國をあげて反對せねばならぬ所以である。他國の政體變更を目的とする戦争は、如何なる意味に於ても日本の戦争たることを許さぬ、日本の一兵をも其に藉することを許さぬ。我邦が聯合國に加はつたのは、右等の爲めではない。無論專制政治、オートクラシーは獨逸に



於て行はれて居て、其が我邦に害を及ぼすときは之と戦はねばならぬ。此意味に於ては、日本もオートクラシー征伐の戦争に加入して、出来る丈けの力を致して居ると云つても少しも差支はない。併し此れは人々の解釋であつて、我邦が獨逸に宣戦した目的として誰人も皆認めて居る所とは云へぬ。少くとも我邦の當局者は寸毫も左様なことは言明して居らぬ。又其れ丈けの目的なれば我邦は既に與國に對して爲す可き助力を十分にやつて居る。其れ丈けで澤山である。出兵と云ふ重大事を要する事ではない。況んやウキルソンの宣言の如きをや、日本人は左様な他國々體の變更を少しも希望しては居らぬのである。オートクラシーは悪む可きである。乍併ニコラスに代ふるにケレンスキーなる新しきオートクラットを以つてすることは、遠大至高なる理想を實現する所以では斷じて無い。

然らば獨逸が此儘にして存在する時は日本の存在は脅され其の利益は害せらるゝか。斷じて左様なことは無い。却つて日本の利益を害することを最も多く行つたのは、右の如く立派な事を宣言しつゝある米國ではないか。鐵の禁輸と石井特使への御馳走とを

交換したものは實に米國ではないか。獨逸は今日まで此に類する迷惑を日本にかけた事は一もない。三國干渉は三國干渉である。獨逸のみの干渉ではない。近き將來に於て獨逸のみが日本を脅し、聯合國は必ず日本の利益のみを圖るなどと云ふことは到底あり得ない。獨逸が此以上打敗かされぬか、又は獨逸が勝つのは、其れは聯合國の一員として迷惑とは感ずるが、日本の存在を危うするが如き憂は斷じて無い。日本の戦をやらなければならぬほどの切迫した事情は一もない。否萬一日本が英米其他の與國の爲めに強請せられて、心にもなき出兵を斷行するが如きあらば、其れこそ國を危殆に導く所以である。左様な強要を爲す國ありとせば、其國こそ眞に日本の敵である。獨逸の如きは、之に比すれば遙かに小なる敵である。

歐洲出兵に就て他の點は暫く置き、其が決して日本の爲めの日本の戦争たり得ぬことは誰人も皆認める所と信ずる。與國と雖も此點は之を拒むことは出来まい。然らば出兵の舉は、日本の軍隊をして日本の爲めならざる外國の戦争に従はしむる所以である。此れは日本の國體の到底許さぬ所である。況んや獨逸國民をして其主權者に叛逆せし

めんとするが如きは、斷乎として我等日本人の一人の取除なく反對すべき所である。萬一我當局者にして他國の強要に屈して、此くの如く我國體と相容れぬ出兵を斷行するが如きことあらば、其れこそ國を誤る所の一大曲事として、我々は何事を措いても極力此に反對せねばならぬ。

此く云ふは、決して歐洲戰爭を他人の事視するからではない。日本あるを知つて世界を顧みぬからではない。沉んや區々たる物質的利益の打算からではない。軍隊の存立の根本義から立論する所以である。外の與國は他國の戰を辭せぬとするも、我が日本軍隊は日本の爲めに已むを得ずしてする日本の戰爭の外は、決して戰爭に従ふ可きものではないからである。

|| 大正六年十月稿全十一月一日『日本及日本人』掲載 ||

#### 四 ウキルソンの教書と日本の國是

##### 一 米統領の宣言と日本

北亞米利加合衆國大統領ウキルソンは、最近第六十五回國會の開會に當り、長文の教書を議會に送つた。その全文は我邦の新聞紙にも譯載されて居るが、該教書の趣旨は、要するに、曩日米國參戰の際發せられた教書及び羅馬法王の講和提議に對する答書等に於いて論ぜられた所と同様で、米國の參戰は全く正義人道の高尙なる理想に立脚してゐる。即ち米國の參戰は、神の正義仁澤の崇高なる峰に登る所以なることを反覆力説したので、外ならない。

我邦識者の中には、ウ氏のこれ等の宣言文字に對し、衷心よりの敬服を捧げてゐるものが少くないようである。現に姉崎博士の如きは、ウ氏の參戰宣言を以つて『人類獨立の宣言』であると激賞し、この宣言に含まれたる思想は戰後の世界を指導すべき一大福音なるが故に、我が日本國民はこの宣言について去就を決し、ウ氏の宣言を以て我が精神國是としなければ、國の存在する意義は無である。とまで極論して居られる。吾輩は斯かる意見に對

して、斷然反對せざるを得ないものである。

假りにウ氏の三回に亘る教書宣言が徹頭徹尾非難すべからざる立派なものとするも、それは要するに米國の大統領が米國民に向つて發した教書に外ならずして、我が日本國民はそれに由つて教へられ、又は指導せられねばならぬ何等の義務を有しない。否、獨立の國民として、外國の大統領に教へられて、始めてその適從する所を見出すが如きは不面目の極である。日本は何ぞウ氏の宣言に對して去就を決するの要あらん。我邦は對獨宣戰の當時に於て、既に確乎たる主義の上に立つて居た。よし小細の點では多少の異論があるにもせよ、大體に於て我が國是が奈邊にあるかについては、國民が一致して認むる所あるべき筈で、何も今更外國人の宣言を讀んで遽かに發奮するの恥辱を味ふ必要あらんや。況んや吾輩を以て言はしむれば、ウ氏の教書答書の中に述べてある所は必ずしも終始一貫して正義人道の上立つた宣言とは言はれないので、この宣言について去就を決せねばならない必要などは毛頭ない。

## 二 此の言論壓迫を見よ

試みに最近の教書につき一二の箇條を批評せんか、先づ第一にウ氏は『米國民は現戰爭が何の動機より起れるか、又如何なる結果を收むれば我邦の目的を貫徹したりと言ふべきかを熟知することは、予之を疑はず。國民として吾輩は精神に於て將た意圖に於て一致せり』といつてゐるが、又次の如くにも云つて居る『予は國民の或者が此處彼處に力ある不忠實なる行動に依りて、我國民の確固不拔なる勢力に反抗するあるを見る』或は『吾人が平和を贏ち得べき方法を解せざるものにして、傲然冷眼に平和を喋々するあるを聞く、然れども予は彼等の言は一として國民の聲にあらざるを知る』と。

即ちウ氏は一方に於ては、此の度の戰について國論悉く一致せりと言ひながら、他方にこれに反對するものあることを認めてゐる。若し米國が專制政治の國ならば、何が眞に國民の意思なるか分明でない場合、賢明なる爲政者が國民に代つてその主義とする所を定めるのは寧ろ當然であるが、米國は自ら民主主義のチアムピオンを以つて任じ、殊に言

論の自由を最も尊重してゐる國である。斯る國柄の國家に於て、若し有力なる參戰反對論者がありとすれば米國の參戰を以て精神及意圖に於て舉國一致せりとは云ひ難い。而してウ氏はその教書に於て異論を唱ふるものは「一も問題の根本に觸れず」といひて、反對論者はいかにもつまらない者の如くいひ、又「暫く其横行濶歩徐々自滅を取るに放任し全然意に介せずして可なり」と云つて、異論者に對し別に壓迫的手段を用ひないと宜してゐるが、實際はこの二つとも著るしく事實に遠ざかつてゐる。

米國に於ける參戰反對論者は決してしかく無價値なものではない、又非愛國的動機から反對するのでもない、眞面目に人類及米國の爲めに考へ、衷心よりの確信を以て異論を唱へ、その勢力も亦必ずしもしかく微弱ではない。従つて米國は之等反對論者の横行濶歩を放任せず、着々彼等に壓迫を加へて居るのは事實である。左に最近起つた一二の事實を述べよう。

言論の自由を以て根本の精神として居る米國殊に學問の自由研究を生命として居る米國の大學に於て、近來奇怪なる事件が持ち上つた。それは紐育コロムビア大學總長ニコラスバットラーが、何等審問を経ることなくして教授キャテル及び助教ダナ（有名な詩人ロングフェローの孫）兩氏を突然誅つた事件である。兩氏誅首の理由として非公式に傳へられたる所によれば、兩氏が自己の平和論を主張するに當り、その意見をコロムビア大學の校名の刷り込まれた用紙に書いて、これを或る國會議員に送つたことが非行と認められたといふにあるが、兩氏罷免の眞因は決して用紙の問題にあらず、兩氏の主張する平和論を不可なりとして、大學總長が教授の言論に壓迫を加へたものなることは、兩氏の同僚たるチャーレス・ペーアド（政治科教授）が本年十月八日附を以つて、同總長に宛て、言論の自由壓迫に對し異議を申立てたる長文の辭表を呈出し、斷然其の教職を抛つのに徴しても明かである。ペーアド教授は熱心なる參戰論者にして、其の主張の上よりいへば極力罷免兩氏に反對であるが、問題は其處になくして、言論の自由殊に研究を以て生命とする大學教授の言論の壓迫したのを憤慨して、敢て此の舉に出でたのである。今米紙に載せられたベ氏辭表の大意を次に譯出する。氏曰く

『數年間當大學内に於ける内部の生活を慎重に觀察した結果當大學は教育界に於て

何等の地位を有せず、政治上に於ては復舊的にして無見識、宗教上に於ては狹隘固陋にして、中世的なる少數の理事の支配の下に立つものなりとの結論を下すの止むべからざるを見る。彼等の行動たる我が一分科が昨春決議したる文中の言葉を借りていへば、學問の進歩の上に於て大學の有する眞正なる職分について深き謬想に陥れるものなることを曝露するものなり。この信念が如何に深く且つ廣く當大學の教授の間に存するかは少しく事情を知れるものゝ直ちに首肯する所なり。然れども若し尋常の時なりせば當大學の理事會に於ける幹部が、其教職員を陥れたる地位の如きは、これを看過することを得べしとするも、今や決して尋常の時にあらず、吾人は一大戦争の中にあり、吾人は米國が有するあらゆる解放せられたる思想を痛切に要すべき時期に立つものなり。

總長閣下が熟知せらるゝ如く、余は開戦の始めより獨逸帝國が勝利を得ることあらば、そは吾人總てを驅つて軍國主義的野蠻の暗夜に投ずるものなりと確信しつゝあり。余は我が米國が獨逸に向つて戦ひを宣すべきことを主張したる急先鋒の一人なりき。

而して一度開戦したる今日に於ては、正義の解決に達するまで吾人の力の一切を捧げざるべからずと信ずるものなり。然りと雖も我同胞中この見解に同ぜざるもの數千を以て數ふべし、而して彼等の説は呪咀又は暴力を以て變更する能はず、吾人は只彼等の理性と了解とに訴へて議論を交換することにより、その賛同を得んことを最善の希望とすべきのみ。而して斯くの如き議論は誰人も其公平なることを疑はず、その獨立に對して何等の疑念なく、其人が或階級若しくは團體を本位とするものならずして、眞に全國の利益を以て念とするものなること明白なる人に依て唱へられざる可からず。然るに余をして上に云ふ如き當大學の理事者の手より俸給を受くる間は、獨逸帝國に對する我米國の正義戦を維持するに於て米國の輿論を喚起し、又は戦後に於ける改造の時期に於て獨立の地位をとる爲めに、予の微力を國に捧ぐることは到底不可能なりと確信せざるを得ず。この理由により予は一九一七年十月九日火曜日の朝を限り、當大學政治學教授の職を辭す。

予は今數年間の關係を斷絶するに當り、如何なる感想を抱くかを筆紙に盡し能はざ

るを遺憾とす、殊に予が深く悲む所は、予の同僚と袖を分つことは是れなり。予は諸君の學殖と世界に普ねき令名とを思ひ、これを比較するに、今我が當大學を支配し、殊に若き教職員を恐怖せしめつゝある少數の暗黒にして我意強き理事者を以てする時は、予は我が米國が世界の何國にも勝りて大學教授の地位を下し、手先き勞働者の地位よりも低きものたらしめたる事に對して驚異の念禁する能はず。手先き勞働者は少くとも同業組合の手段によつて、其雇用の條件につき多少の容喙權を有せり。然るに米國に於ける大學教授は誠に只一日の地位を保つに過ぎず、其罷免せらるゝや何等の査問を受くることなく、彼れの同僚の判斷によることなく、突如として其職を奪はるゝものなり。予は確信す、我國民にして我が諸大學に於ける眞狀を知るに至らば、我國民は大學の精神生活に關して專制權を有する理事會の特權を剝奪すべき法律を制定せざるべからずとなすに至らんことを、(以下略)と。

然るに最近の報道によれば、この事件後間もなき十一月二日、イリノイス大學の教授八名が又々言論の爲めに懲罰せられたといふことである、其詳報は知るを得ないが、自由を誇る米國に於て言論の壓迫斯くも頻々とは行はれつゝあることは、大統領の教書に現はれたる所と何等の矛盾なしと言ひ得るか。

### 三 大軍國化しつゝある米國

吾輩は米國の現狀を觀て米國は今や急激なる勢を以て、その標榜する自由民主の主義を棄て、金權政治の最悪所を遺憾なく發揮し、更に是れに加ふるに大規模なる軍國主義に走りつゝあるものと認めざるを得ない。二百萬の出兵計劃といひ百十億弗の戰費要求といひ事實は明かに米國の大々の軍國化を語るものではないか。

開戦後三年間の各國戰費支出總額は九百七十四億五千萬弗に達すとのことにて、今や米國が參戰したる爲め一箇年に五百八十一億五千萬弗の戰費を要し、開戦四年の末には實に一千五百五十六億弗即約三千三百億圓といふ驚くべき巨額に達する計算なりといふが米國の參戰は人類全體にとつての失費を夥しく増加するものである。斯る參戰に對し米國の學者が反對意見を有するは、必ずしも非愛國的和斷することは可能ならず。

然るに獨逸に對してその專制政治そのオートクラシーを極力非難しつゝあるウ氏は自國に於てしかも自由研究を以てその存在の根本條件とする大學に於て、上述の如き言論壓迫が行はれつゝあることを御存じないのか。否、バットラー總長がこの處分を斷行したのは、ウキルソンの主義に同する所以なりと公言しつゝあるではないか。即ちウキルソンと總長の間には、兩教授職首については充分の諒解ありしことは、種々の事情より容易に歸納し得られるのである。

斯る知識階級殊に米國大學中に在りても第一流たるコロムビア大學教授の意見は、單にこれを以て『傲然冷眼に平和を喋々するものにして一として國民の聲にあらす』と斷じ去り得るか。政治學擔任のベード教授が、米國大學教授の地位は勞働者の地位よりも尙低しと云つたことは、全然意に介せずして可なるものなりや否や。斷乎として戰勝の目的を貫徹するは結構なりとしても、戰勝の目的のためにはあらゆる壓迫を加へることは、ウ氏が極力排撃する獨逸式政治なりといはねばならぬ。見よ、ウ氏は教書の中に『國民は我輩の意圖が即ち國民の意圖なるかを問ふの權利を有す』と聲明して居るではな

いか、しかも吾輩は其の言ふ所と行ふところには大なる矛盾あるを否定し能はずと信ずるのである。

#### 四 他國民に反逆を強ふる教書

第二にウ氏は、一面壞國について『吾人は如何なる場合にもこれを破壊し、或はその組織を改めんことを希望するものにあらす』と云ひ、又『吾人は獨逸に對しその内政に干渉する意思を有せず』と云つてゐながら、他面『專制主義者に對し吾人の執るべき最初の手段は、彼等が現代の世界に於て、一國一社會を率ゐるの資格なきを明かならしむるに在り、獨逸今日の治者の如き輩が地球上より排除されざる限り、人類生活に正義的規準を適用するは全く不可能の事と稱せざる可らず』といひ、又『獨逸國民にして戦後も尙現在の治者を頂かざるべからずとせんか、獨逸國民は今後世界平和の保障として成立せしめざるべからざる國際團體中に伍する能はざるに至るべし』といひ、『獨逸人民が適法の委任を受けたる代表者を通じて、其の治者が犯したる罪惡の保障と正義の上に基礎を

「敵く講和云々」といつて獨逸國民が現在の治者に背叛し其の廢立をはからなければ、これと講和することなかるべき意味を明言して居る。これ私の甚だ了解に苦しむ所である。

成程所謂正義人道主義の眼から見れば獨逸現在の治者に責むべき所あるは勿論である。然し少くとも他日はいざ知らず現在に於て獨逸國民は其の治者に背き、これを廢そうとは少しも思つて居ない。然るにウ氏は獨逸國民に向つて、彼等の希はざることを強要し、是を實行せざれば講和せず又國際團體中に加へざるべしと威嚇してゐる。斯くの如きは實に他國の内政に對する大々的干渉たるのみならず、其國家を破壊し、其組織を改めんとするものである。觀方によれば、埃匈國に關して特にその國家を破壊し、又はその組織を改むることを希望せずといつてゐるのは、獨逸帝國に對してはこれを希望すといふ意味にもとれる。これ果して公正神聖なる動機に出づるといひ得るか。吾輩は斷じてその然らざるを主張せざるを得ない。少くとも他國の國民を強制して、其の君主に逆かしめんとするが如きは、日本の國民性がこれを許さない。

苟くも戦ふ以上、その敵を絶滅することを目的とするのは寧ろ當然であるが獨逸の國民を強いて其治者に對する謀叛者たらしめんとするが如きは、全く別箇の人道問題である。獨逸は白耳義を亡ぼした又塞國を倒した、然しながら獨逸は未だその人民をして彼等の治者に反逆せしむるほどの罪惡は犯してゐない。

斯くの如くウ氏の教書には、これを米國々民として考ふるも、尙幾多の首肯し難き點と批評の餘地がある。然るに我々外國人たる日本人が、斯る教書を仰いで人類獨立の宣言と見做し、隨喜渴仰して立國の指針とせねばならぬなどは迷惑千萬である。我邦開戦の理由は柄乎として宣戦の詔勅中に餘かであつて、今に於てこれを改訂しなければならぬ必要は寸毫も在存しなす。

### 五 果して高尚なる主義戦乎

ウキルソン大統領は又『吾人は現戦争は吾人に取ては高尚なる主義の戦にして、征服掠奪等の私念に基けるものに非ざるを熟知す』といひ、又『吾輩が曩に世界の國民は皆



に公海自由航路を無拘束に航行するの権利ありと謂へる時、吾輩は單に吾人の認容と援助とを要する小弱國のみに就て考慮せるに非ずして、優秀なる列強並に吾人現在の敵國吾人現在の聯合國に就ても同じく考慮したるものなるが、吾輩は今も此態度を改めず」と云つて居るが、これ果して米國乃至その聯合國が着々實行しつゝある所であらうか。

全體の戦局を決定する上に何等の關係なき阿弗利加に於いて、英國がその領土を貪慾に擴張しつゝあるのは、高尚なる主義の戦といへるであらうか。希臘を壓迫しその國王を放逐してまでこれを参戦せしめたのは、小弱國の自由維持と名くすることを得るか。而して公海自由航行といふことは聯合國の巨頭たる英國が從來實行し來りたる所なるや否や。殊に我邦に對し鐵を始め金其他の禁輸を斷行し、我邦が最善の誠意を披瀝してその一部解禁を求めたるに對し、代償として百萬噸の船腹を要求したのは、果して神の正義仁澤の崇高なる峰に登る所以なるか、高尚なる主義の戦たる實を現はしたる仕方なるか、人類生活に正義的規準を適用する所以なるか。是等はすべて獨逸の罪惡的行爲を責むること愈なる手前に對し、毫も恥づることなき公正神聖なる態度及主張なるか、吾輩は不

幸にして姉崎博士と共に隨喜の涙をウ氏の教書に濺ぎかける勇氣を持たない。

姉崎博士が歐洲に於ける正義人道の一開祖なりといはれたグロウシアスが終生熱心に主張した公海の自由は、何處の國によりて最も多く實際上無視せられて來たか、それは英國だつたのではないか。諸國民の自由及國際間にも、尙個人道德の標準を採用せんといふウ氏の主張と、彼の日本學童問題や又近くは在米日本兒童の爲めに、わざ／＼渡航した日本小學教師を勞働者と見做して、その入國を拒絶したるが如きことは、果して何の對照をなすか。

吾輩は加州に於ける日本勞働者排斥に就いては、豫てより米國の主張にも充分の道理あることを承認しつゝあるもので、この點については會つて社會政策學會に於て卑見を陳述した時に『君は米探ではないか』といふ冗談の批評をうけたこともあるほどで、決して日米關係に於て遮二無二、日本の主張を何時でも正しいと斷ずるものではないが、この學童問題、小學教師排斥問題殊に鐵禁輸の如き問題に至つては、日本がその當事者にあらずして、或他國がその當事者なりとするも、米國の爲す所は斷じて非なりと主張せざるを

得なし。

## 六 現實の上に立て

然り而して米國の參戰の事は米國の勝手に決める所で深く論ずる必要はないが、その大袈裟な軍擴張や、金融動員、食料調節、其他あらゆる戦争關係の施設は、單に獨逸と戦ふ目的及必要から來たものであらうか否かは、大に疑問とせねばならぬ。現に米國が參戰以來、軍事上に於て聯合軍に寄與したところと、その大規模の參戰準備とを對照して、これを經濟上から考へて見るに、甚だ奇異の感を惹き起さざるを得ないものが多々ある。否、却つて米國は參戰を口實機會として、豫てより企て居たる大軍國化を斷行するものではないか。平時に於ては到底米國の輿論の許さないことが、獨逸に對する反抗心、敵愾心を極度まで緊張せしむることによりて可能となつたのである。而も一度鞘を脱した双は容易に元に納まるものではない、たとひ今日の米國には正義人道以外何等特別なる意圖なしと善解しても、一度大擴張せられた軍備は、他日事ある時には用を爲すべき兇器とな

る。

吾輩は戦争により獲得したるウ氏の絶大なるオートクラツト的權力は、着々として米國を軍國主義の深味に導かずしては止むまいと思ふ。況んや現に對獨の必要に數倍する大軍備を準備しつゝあるは、その間何等特別の意圖なしと解することは甚だ困難なことである。若し獨の暴行を杜絶し現戦局を公正神聖に解決することが必要なりとするならば、米國は何故我が日本と同時に獨逸に對して宣戦しなかつたか。若し米國にして日本と同時に宣戦したらんに、少くとも海上に於ける幾多の悲惨事は著しくこれを輕減し得たるべき筈である。又獨逸に對する物資の供給を杜絶することが、戰勝の目的を貫徹するに必要なりとするならば、何故に米國は間接に巨多の物資が自國より獨逸に輸入せらるゝことを防がなかつたのであるか。米國にして日本と同時に參戦したらんには、此重大なる任務を單り英國にのみ負擔せしめずして、濟んだに相違ない、然るに開戦後三年間も傍觀者としての利益を享樂し、今となりて遽に公正神聖の正義仁澤を列擧した大獅子吼をなすのは、適時といへようか。若し人類獨立の宣言が必要なりとするならば、

其時期は日本が参戦した時であつて、三年後の今日では断じてなく。

以上述べたやうな次第であるから、我々はウキルソン大統領の教書の中にある立派な言葉に感服するは自由であるが、直ちに是れを以て我國是を定むる金科玉條なりとして奉ずべしなどと考ふるは大間違ひで、其は空想を以て現實に代へんとするものである。吾人は今の時に於ては空想に耽る自由を有さない。戦後の世界はどうするにしても、先づその前提としては、世界各国がどうなつて居るかの現實、戦後各國の状態がどうなるかの現實を充分熟考しなければならぬ。然らざれば、それこそ却て國を危きに導く所以である。

同盟國として露西亞を頼みにしてゐた佛蘭西が戦争以來嘗めた苦い經驗は、佛國民の聯合國中にありて殆んど類例なきけなげなる奮闘殉國的努力を以てしても、尙痛切な苦難を國民に與へつゝあるではないか。若し佛蘭西の政治家にして頼むべからざる露西亞を頼むことなく、現實の上に立脚して國家の運命を指導して居たならば、彼れの如き健氣なる國民を以つてすれば、今日の如く悲惨な境遇を現出するを免がれ得たであらう。

我日本國民はその健氣さに於てその殉國的精神に於て佛蘭西に優るとも劣るものではないことは吾輩の確信して疑はない所であるが、斯る健氣な國民を指導する人々が現實を無視して頼むべからざるを頼み、單に言葉の上の正義人道に隨喜の涙を流して居るならば、國歩は甚だしき難境に進み行くを免れ得ない。これ吾輩が米國と其文明とに對し常に深厚なる敬意を有するにも拘らず、以上の如き苦言を敢てする所以である。

|| 大正六年十二月談話七年一月『大日本』掲載 ||

## 五 何の爲めに戦ふ

近來英米に於て戦争の目的に關し、ロイド・ジョーヂやウキルソンが屢々聲明をして居

る。(參照 War speeches by British ministers 1914—1916. London 1917—W. Wilson Why we fight the Germans. 1917) 是に關聯して我邦に於ても尾崎行雄氏は近く帝國議會に於て戦争の目的に關する政府の所見を質問したる等識者の此問題に注意するもの多いやうであるが、我輩の信する所では、我邦としては此の問題は戦争の始めより既に定まつて居る所であつて、開戦後四年の今日に至つて、事新しく戦争の目的に關して論議する必要は寸毫もないと思ふ。是れを道理の上より言へば、英米に於て今日戦争の目的に就いて屢々聲明し、論議を闘はすと云ふことは實に不思議と謂はねばならぬ。何故なれば、國を擧げて人命を損し、財産を抛つて戦争に従事するに當つては、初めから確固たる目的が在存しなければならぬ筈である。然るに戦争の最中に至つて、其の目的に就いて議論を闘はすと云ふ、其の聲明の始終變更さるゝとか言ふに至りては、是れ畢竟戦はんが爲めに戦ふものであつて、その目的なるものは、單に後から附け加へた理窟に外ならぬことを證明するものではないか。恰かも一生懸命に走りつゝある人が、傍人に向つて、一體我輩が馳せて行く所は何處であるかと尋ねたと云ふ落語にでもあり、そやうな滑稽事である。

## 二

目下歐米に於ける戦争に關する聲明の中心問題は、無賠償無併合と云ふことであるが、是れは聯合國にとりては、其戦敗の場合には、必ず主張す可き事項となるであらうが、其勝利を得る場合には、必ず誤魔化し去ることと思ふ。換言すれば、英米が常に口にして居る正義人道と、戦争の目的とは一致して居らぬ。苟も正義人道を口にする以上は、無併合無賠償を有力に主張するものあれば、當然是れを承認しなければならぬ筈で、斯くて渠等は自繩自縛に陥いつた形である。而して他方に於てアルサス・ローレンは佛蘭西に奪ひ取らなければならぬ。是れは決して無賠償無併合の原則に反くものでないと言つて居るけれども、是れはコジツケの議論である。若しアルサス・ローレンは一八七〇年までは佛國に屬して居つたのであるから、今日是れを奪ひ返へすも、夫れは併合でないと言ふならば、其の以後に起つた併合に對し、例へば米國が併合した比律賓を若し西班牙が返へして呉れと言つたならば、米國は何と答へるか。又米國は獨立王國であつた布哇を併合した

が布哇が獨立王國の舊狀態に引返へして呉れと言ふならば、何うするか。比律賓も布哇もアルサス・ローレンよりは新らしく併合された領土ではないか。ウキルソンは獨塊の領地の臣民に主權を取捨す可き自主權を與へよと云ふが米國は布哇や比律賓の人民が主權者を取り替へたいと申出でたら、其の自主權なるものを果して承認するであらうか否か。更に同一の論法を廣く當て筱めると、關係國は尙ほ多くの吐き出さねばならぬ領土を持つて居るではないか。此の筆法を極端に押し弘めて行くと、日本の臺灣朝鮮の如きも、同様の範圍内に算へらるゝであらうと思ふ。苟も無併合無賠償を原則とするからには、誠心誠意併合や賠償を排し、今度の戦争の結果として何物をも受けないと云ふことにしなければならぬ。然るに或る國の或る併合に對しては除外例を認むると云ふことでは、其の無併合無賠償主義も何か爲めにする口實に過ぎないと謂はねばならぬ。而して我邦としては此の無併合無賠償問題に對しては、極めて簡単な解決を下し得ると思ふ。

## 三

元來我邦は世界の正義人道とか、獨逸を全滅するとか、其の軍國主義的政府を倒すとか、普魯西の政體を變更するとか云ふことの爲めに、對獨宣戰をなしたのでは斷じてない。併しながら國際間に現はるゝ善美なる問題に對し、日本は日本の立場よりして一致し得ることには飽くまでも一致して行く。是れは今度の戦争に限つたことではなく、文明國存在の根本義である。併し乍ら此の根本義と戦争に従事した目的とは同一ではない。彼の平和の爲めに戦争すると云ふことは、甚だしき矛盾であると謂はなければならぬ。是れを個人の間で就いて言ふも、相互間の親密を増進し、意思の疎通を計るが爲めに、先づ人を毆打すると云ふことのある可き道理は決してない。國際間に於ても干戈を以て立つと云ふことは、既に平和の破壊であつて、正義人道とは全く矛盾した行動である。夫れ故如何なる口實の下に於ても、戦争たる以上は正義人道の上から見ると、變則であると謂はねばならぬ。米國大統領ウキルソンの宣言の如きは、政治家の言論としては立派であ

るけれども、是れを正義人道の上より見れば、大なる瞞着の辭と謂はなければならぬ。

## 四

若し夫れ其の高唱する所の正義人道の内容を見ると、毫も一定せずして教書の内容は時々大に伸縮して居る。而して米國が戦争に加はつた爲めに止むを得ずして取る所の手段及び止むを得ざるにあらざるにも不拘取る所の手段（其は甚だ多い）直接戦闘行為にあらざる通商貿易に關して取る所の手段は實に參戰以來米國が歩一步正義人道に反しつゝあることを立證するものである。

一月十九日發で本日接手した米國の某友人からの手紙に、左の一節があつた。

『米國政府の思切りたる軍國政策は、御承知の如く愈々出でて愈々驚歎の外なく、一昨日（一月十七日）發布の『ショット・ダウン・オーダー』Shot down orderの如きは、何人も豫想だもせざりし處にして、今日迄如何なる專制的命令にも反對の聲を挙げざりし新聞紙すらも、始めて不平を訴ふるに至り申候。紐育タイムスの記事によれば、十五日間の工

場閉鎖によりて「ミ」河以東二十八州に於て、其間失職す可き職工の數無慮五百六十萬人、此勞銀一億六千萬弗、製品の減額七億六千弗に及ぶ可しとのことに御座候。議會商業會議所等にてても反對の氣勢見受られ候へ共、幾分の除外を認める位の處にて、結局泣き寝入と相成る可くと推測せられ候。紐育邊の新聞紙は右はマカドウィの仕業にて同氏が鐵道總監となりたる以來貨物運送の遺繰全くつかず、ざりとて自分の名義にて右の如き法律を發布するときは、次回大統領選舉に影響す可きを恐れ（同氏は財政策の成功以來次期大統領たらんとの野心を起したりとは屢々聞く所に有之候）ガーフフィールドをして此舉に出でしめたるなりなど揣摩致居候。今日軍事關係者間には軍事的には聯合側にも敵側にも決勝の見込なきこと明瞭なるに、米國が斯くも銳意努力戦争準備に盡す其の眞意は、我々には何故か頓と了解兼ねる所に御座候。兎に角向後米國の國勢一變の兆正さに瞭然たりと可申と存候（下略）

殊に我日本は、其れが爲めに甚だ迷惑を被つて居る。將來又た或は愈々然る可しと思ふ。是れは恰かも悪人を懲しめる爲めに鞭打つと稱して拳を上げた人が、後足で他の傍觀人

を蹴倒すと同じやうなことで、日本は何等の咎なくして喧嘩の側杖を大に喰ひつゝある次第である。

## 五

縱令今回の戦争に於て、獨逸を滅ぼすことが出来たにしても、戦争は決して世界の表面から跡を絶つものではない。然るにウキルソンの聲明する所によると、米國が大に動員して戦争に参加した所以のものは、向後世界の表より戦争を根絶せしむる爲めであると云つて居るが、是れは瞞着の甚だしきものである。此事に就いては英國の識者も大に論難して居る。夫れはアスキスがウキルソンと同じ意味の演説をバミントンガムに於てなした時に、英國の識者は今回の戦争に於て獨逸を倒せば、將來戦争を根絶することが出来ると思ふは空想である。此くの如き空想を以て國民を欺き、斯く欺くことによつて國民に無理に奮發せしむるは大に不都合であると論じて居る。米國人がウキルソンに欺むかれ、英國人がロイドヂョーヂやアスキスによつて欺むかるゝ事は詮方ないとしても、我

々日本人は是れに欺むかれねばならぬ義務は毛頭も持つて居らぬのである。

## 六

既に一度戦争を開始したと云へば、其の事だけで正義人道を完全に實行して居らないことを意味するのである。唯だ我々文明國民は一步正義人道を踏み外して戦争を始めても、戦争に當つて戦争を遂行する必要以外に正義人道から外れないやうにし、出来得る限り戦争の害毒を限局することに努力す可きである。實に戦争其の者が正義人道を實現するものでないことは多言するまでもない。乍去悲しい事には、今日現在の國際關係に於いては、正義人道の一點張りで行けないことは、屢々戦争の起ることによりて有力に證せられて居ると思ふ。米國が今日まで大陸軍國でなかつたのは、其近隣に有力な國がなかつたからであつて、若しも米國にして三つも有力な國と境を接すること、獨逸の如くであつたならば、疾の昔に大陸軍國となつて居つたであらうとは、米國コロムビア大學教授スロイン(Sloane)が公言して居る所である。而して既に戦争を始めた以上は、戦争の

結果として現はれた状態を飽くまで維持するに努むると云ふことは、各國家存在の根本要求であると謂はねばならぬ。是れを具體的に言へば、戰敗國としては可成償金を支拂はぬやうにし、又奪はれたる領土なり其の他の利權なりを恢復することに努めなければならぬ。反對に戰勝國としては占領したる領土を還附せぬやうにし、償金は出來る丈け支拂はしめ、利權も出來得るだけ獲得するに努むべきであつて、是れが國家の生存權より起る當然の要求であると思ふ。此の意味より云ふと、無併合無賠償と云ふことは、抑も戰爭を開始した當初の趣旨と兩立せざる空論であると云はねばならぬ。

## 七

抑も獨逸は戰爭を開始するに當りて、無併合無賠償など云ふ考へを持つて居なかつたことは言ふ迄もなく、聯合國としても戰勝の場合に於て、無併合無賠償主義を採るなど云ふことは開戰當時毫も期待して居つた處ではない。唯戰敗の場合に主張するか否かの問題である。或る論者は、戰勝の場合に於ける所謂國家の生存權に基因する當然の要求

を目して國際間に於ける侵略主義であると言ふも、我々は斷じてさうは思はぬ。日清戰爭の際日本が遼東半島を還附し、日露戰爭の結果露國より償金が取れぬと云ふ場合に於て、我國民は殆んど除外なく國を擧げて不満不足を訴へたではないか。勿論新聞雜誌の指導力も與て大なるものがあつたであらうが、山間僻邑の新聞も雜誌も見ることの出來ないものまでが戰ひに勝つて償金も取れぬ、又占領したる領土を還附することを決して喜んで迎へた所ではなく、唯だ止むを得ずして沈黙を守つたと云ふに過ぎないではないか。戰爭を開始する以上は、苟も一の國家の臣民であるからには其の獲得したる所の利權を維持したいと欲求するのが當然であつて、是れ畢竟國家の根本要求を具體的に言ひ現はしたものと謂はなければならぬ。己れの欲せざる處是れを人に施す勿れと云ふことがあるが、獨逸が其の占領したる地域を還附し、尙ほ其の上にも英佛聯合軍が未だ一兵をも止めず、獨逸が完全に保留して居るアルサス、ローレンを還附せよとは、是れ實に難きを人に強ゆるものでないか。事例は大いに違ふも、若し日露戰爭後に於て我邦が支那大陸に於ける一切の權利を放棄し、加ふるに臺灣を露國に讓與することを要求されたり



とせば是れに對して何と答ふるであらうか。又此の條件の下に於てのみ講和をしてやる然らざれば講和をせぬと言はれたならば我國民は必ずや最後の一人となるまで戦争の繼續を絶叫したであらう。我輩はさう感ぜずには居られぬ。然るに更に是に加へてウキルソンの言ふ如く、現在の獨逸の主權者とは講和の談判を開始しない。夫れ故政體を變更し、主權者を取換へて來れと獨逸國民に強要するのは、無法千萬な出來ない相談と謂はねばならぬ。

## 八

戰敗者より言ふと、無併合無賠償主義は極めて都合好きことであるけれど、夫れだけ戰勝國にとりては容易に容れ難い主義である。恰かも債務者は平均徳政を歓迎するに相違ないが、債權者は是れに反し必ず是れを拒むに相違ない如くである。現に無併合無賠償を高唱して居る國は戦争の上に於いては敗者である。敗者として無併合無賠償の主義を承認することを勝者に強ゆるは潜越である。是は日本としても誠に迷惑千萬の事

である。均しく聯合國であるが今日の處では他の與國は戰敗者の地位に立ち、日本は獨り戰勝者の地位に在るではないか。無併合無賠償主義は戰勝者たる日本としては甚だ迷惑なことであつて、此の點に於ては日本も獨逸も均しく迷惑を感じる當事國であると謂はなければならぬ。即ち若し無併合無賠償主義を勵行せば、我邦は青島なり南洋諸島なりに於て獲得したる權利を放棄しなければならぬ。勿論是れは決して我邦が對獨宣戰をなすに際し、當初より豫期したる所でないばかりか、我邦も可成正義人道の行はるゝことには力を藉すべきであるから、若しも過去にまで無併合無賠償の原則を溯及するのであり、殊に世界の大半を獨占して居る英國が、進んで夫れ等の權利を抛棄すると云ふならば、是れは寧ろ甚だ結構な事であつて、我邦も今回の戦争に於て獲得したる權利を固執するにも及ばないのみならず、或は朝鮮臺灣を還元しても宜しいのであるが、過去の戦争に於て獲得したる領土や權利は是れを維持して毫も譲らうとはせずして、英國が戰敗國たる地位に立つ現下の戦争に限つて、急に無併合無賠償主義を力説高唱し、口に正義人道を叫んで他人の獲得したものは、是れを吐き出すやうにし、自分は少しも吐き出さぬと云

ふことは甚だ蟲のよきことである。若し佛國のアルサス・ローレンの恢復と軋觸しないと稱する無併合無賠償の主義を、今回の戦争に當て嵌めようとするならば、各當事國が過去を通じて既得の權利を放棄するのでなくてはならぬ。例へば米國は比律賓を西班牙に還附し、布哇を獨立王國の舊態に復し、英國は印度の獨立を許し、加奈陀を放棄し、露國は西比利亞を放棄するとでも云ふのならば、それは初めて意味をなすのであつて、此の場合になれば、正義人道より講究すべきであると思ふ。然るに事此處に出でずして、單に獨逸に迫りて無併合無賠償主義を強ひて承諾せしめんとし、又強ひて日本をして同じく此の主義を承認せしめんとするが如き、却つて正義人道を遠ざかる所以ではないか。

## 九

其處で我々は我邦としては、今更戦争の目的を詮議するは無意義であると思ふ。我邦は無論侵略主義を目的として對獨宣戦をなしたのでなく、當初より東洋の平和を維持するにあつたが、唯だ當面の問題として東洋に於ける獨逸の唯一の策源地たる青島を奪取

し、是れを支那に還附すると云ふのであつて、然らざれば東洋の平和は得られないと考へたのであるが、私一個人としては必ずしも東洋の平和維持の爲めに對獨宣戦が必要であつたとは考へて居らぬ。否、東洋の平和の最も多く脅かされるは、過去に於ては露と英と將來に於ては米と英とより來ると信ずるものである。然し國論が一度決定したる以上、終局まで宣戦の、既往に溯つて論議しようとは思はぬ。即ち對獨宣戦をなしたる以上、終局まで宣戦の目的を貫徹するに努力すべきであつて、別段是に附加する必要はないと思ふ。而して我邦は來るべき講和談判に際し、其の獲得したる領土を斷じて獨逸に返還しないと云ふ一事があるのみである。併し是れが爲めに再、世世界の變亂を誘起し、聯合與國に多大なる迷惑を及ぼすと云ふ場合には、事の輕重大小を比較考量し、其の重きに從つて處決すると云ふ問題が起るが、是れは當局者が仔細に考へし能く國論の歸着する所を考へて、誤まりなき様努めなければならぬ。世界の平和を害する嫌ひない限りは、單なる正義人道の口實の爲めに、既得の權利を輕々しく抛棄してはならぬ。斯くの如きは畢竟國家の存在を無視する所以である。乍併我邦のみが獨り獨逸に對して開戦して居るならば、極力占

領地の割譲を主張すべきであるけれども、數多の國家と聯合して戦争に従事して居ること故他までも自國の都合のみを勝手に主張する譯には行かぬ。聯合與國の利益をも尊重しなければならぬ。若し聯合與國に於て速に講和する必要を生じ其爲めに各與國とも多少の犠牲を拂ふことを甘んずる場合に於ては、日本のみ獨り一步をも讓歩すること能はずなど主張するは、世界實際の通義に反する所以であるが、若し夫れ聯合與國にして自己が犠牲を拂はずして、單に日本にのみ犠牲を拂はず場合には、飽までも争はなくはならぬ。縱令日本が既得の權利を放棄しないとしても、來るべき平和は必ず來らねばならぬから、講和に際しては日本は十分に其の權利を主張すべきである。而して是れ以外に於ては、我邦の取るべき戦争の目的はないと思ふ。即ち我邦としては、宣戰の目的は既に十二分に達し終つたので、何時講和となつても少しも差支ないし、此以上餘計な事をして人命と國費とを徒費するは愚な話である、我邦に取つては戦争は一切終局して居るのである。況んや交戦兩當事者が疲弊し切つた時を待つて、歐洲に出兵して一獲奇利を博す可しとする津村秀松氏一派の主張の如き、奇怪千萬な俗論であると信ずる。此こそ最

醜劣なる侵略主義である。獨逸の政體を變更するとか、軍國主義を未來永久に絶滅するとか云ふ如きは我邦にとりては戦争の目的に少しも這入つて居らぬ所である。日本には日本の立場があり、英國には英國の立場があり、米國にも佛國にも夫々自國の立場があつて、各國は何れも其の國の立場よりして戦争に従事して居るのである、各國は必ずしも單一なる目的の爲めに戦つて居るのではない。

## 十

近來英米の識者が主張する所によると、今回の戦争の目的はオートクラシーを絶滅してデモクラシーを立つるにあると言つて居るが、なる程戦争の結果に徴して見ると、左様な傾向の顯著なるものあるを認める。是れは甚だ結構なることにして歓迎するに躊躇しないが、併し是れを以て直ちに各國が協同して戦つて居る共通の目的であるとは言はれぬ。何となれば、縱令聯合國が十分の勝利を得て戦争を終結するものとしても、オートクラシーが減びてデモクラシーになるとは言へぬ。又獨逸を滅ぼしても世界に於ける

オートクラシーが絶滅する筈はない。オートクラシーは必ずしも獨逸に限らない。英米が勝つたとするも、是等の國はデモクラシーの名實共に備ふる國でない。却つて獨逸よりも今日に於ては英米の方がオートクラチツクである。目下最大のオートクライトは英國の宰相ロイド・デューヂではないか。近時ウキルソンもオートクライトになつて絶大の權力を奮ひつゝあるが、是れに比較すると、獨逸皇帝はより少なるオートクライトであつて、閉戦以來漸次に其の權力は狭められ、同時に獨逸も亦非オートクラチツクになつた事は疑ひを容れぬ。實に戦争の間接の結果として、獨逸のオートクラシーは減退し、又露國に於けるオートクラシーの源であるロマノフ家は滅亡し、斯く敵味方ともに滅じたにも不拘却つて英米兩國は少なくとも現在に於ては、戦前に比して甚しく非デモクラチツクになつて居る。されば獨逸を滅ぼすと云ふことは、結局オートクラシーが減じつゝある國が減ぶる譯であつて、却つて英米に於けるオートクラシーが増大することになる譯である。若し是れを極端に言へば、オートクラシーを倒してデモクラシーの爲めに戦ふのであるならば、寧ろ獨逸に向ふ兵の半分を割いて、是れを英米に向けべきである。斯

くする方が戦争の目的を達することになると謂はなくてはならぬ。されば是れを以て直ちに戦争の共通の目的であるとは言へぬ。事實は着々として其の反證を擧げつゝあるではないか。

## 十一

抑も戦争は勝つことによつてのみ其の目的が達せられるものである。敗けては目的を達することは出来ぬものである。此は自明のことである。夫れ故戦争には一舉兩得と云ふことはない。何うしても一方が勝てば一方が負けなければならぬ。通俗に商業は平和の戦争であると云ふけれども、これは間違ひである。商業は一舉兩得どころか一舉百得、又は一舉千得である。商業上に於ては己れが利益を得るが爲めに必ずしも他人に損失を與へるものではない。唯だ取引所に於ける投機はさうは行かないのであるが、是れ投機取引のよろしからざる所以である。文明の商業は各々兩方の當事者が各自利を得て退くのであるけれども、戦争には當事國間に必ず勝敗があつて、負けるものがなけ

れば勝つものがないのである。夫れ故交戦國の何れもが皆勝利を得ると云ふ事は不可能事であり、又矛盾であると謂はなければならぬ。而して勝てば當初の目的を十分に或は一部分達することが出来るけれども、負けては單に屈服があるのみである。されば各國とも平時に於て巨額の経費を投じ、軍備を充實して、一朝有事の際に戦敗者たらないやう用意して置くのである。若し負けても目的を達することが出来るものならば、何れの國も莫大の経費を支出して、軍備を充實して置く必要などはない筈である。何と言つても戦争は勝たなくては、その目的も主張も貫徹することは出来ぬ。然るに今回の戦争に於て、少なくとも目下の状態に於て、戦敗國たる地位にある英國が、公々然として戦争の目的を聲明するに至つては、甚だ以て異様の感がある。併し負けては當初の目的は達せられぬ。ロイド・ジョージが何遍演説しても、到底此の状態を改むることは出来ぬ。是れに反し米國は未だ戦敗國でないから、戦争の目的を聲明する権利はある。されど米國は未だ戦はないので、是れから戦はんとするものである。夫れ故戦敗者たる英佛と米國とは自ら其の立場が違ふ。是れを同一の立場に劃一しようとするのは無理である。夫れと同

じ道理で、過去に於ける戦勝國たる日本と、未だ勝敗が山のものとも海のものとも決せざざる米國とを、同一の立場に立たしめねばならぬと云ふことは、感なき話ではないか。

## 十二

私は茲に敢て言ふ。米國が或る目的を立て、獨逸と戦はんとするならば、米國は獨逸を一手に引受けて戦ふのがよい。他國をまで強てお相伴させようとするに至りては、甚だ迷惑である。況んや夫れが爲めに間接に種々なる迷惑をかけられても、我邦が是れを如何ともすることが出来ないこと云ふのは、聯合國と云ふ名義を以て餘りに多大の犠牲を要求する所以であると謂はなければならぬ。元來米國には米國の立場があり、又其戦争の目的があらねばならぬ。米國が其目的を遂行するが爲めに、獨立主權國として有して居る権能によりて、戦争を繼續するものとも何うするとも夫れは米國の自由である。併し是れを以つて他國を強ゆることは不都合である。然るに露西亞は眞に講和を希望して居るにも拘はらず、單に聯合國たるの廉を以て、其の人民の一人も欲せざる、而して其軍

隊に一の鬪志ないのを無理に引きつづて、戦争を継続せしめんとするに至りては、不正義不人道の甚だしきものと謂はなければならぬ。米國のウキルソンは各國民の自主權を主張して居るが若し眞に各國民の自主權を尊重するならば、露國國民の欲せざる戦争を颯ゆると云ふことは、自主權侵害の甚だしきものではないか。或は現露國の政權者は獨探であつて、國民の眞の意志を代表するものでないと曲辯するかも知れぬが露國の眞の國民的意志は決して戦争を欲して居ないことは、政府が獨探であると否とは全く無關係であること明瞭なる事實である。然るに自國に都合好き時は國民的意志であると言ひ、都合悪しき時は夫れが國民的意思でないと言ふが如きは、餘りに得手勝手な議論であると謂はなければならぬ。又他方に於て獨逸皇帝は國民の意志に反して戦争を開始したと言ふけれども、是れも瞞着の甚だしきものである。此の事に就いては十二月八日のロンドン・エコノミスト雜誌に有力なる反駁文が掲載されて居る。即ち其の論旨は、向後はイザしらず今日に至るまでの事實に徴すると、獨逸國民がカイゼルの今回の戦争を開始したことを全然承認し、カイゼルを戴いて戦争を遂行することを期して居る。夫れ故今

日までの處は獨逸の主權者と國民とは全然同一の意志を以て進んで來て居る。然るにも拘はらず英國の國民をして是等の事實と全く反對したることを信ぜしめようとするのは、甚だよろしくないと言つて居る。ウキルソンの所謂各國民の自主權と國民的意志の尊重との點より言へば獨逸に對して其の主權者を取り代へて來なければ、講和して遣らぬと云ふが如きは、自主權侵害の最も甚だしきものであると謂はなければならぬ。

## 十三

是れを要するに第一に聯合國全體に就いて言へば、戦争の目的と云ふことは、各國が皆夫々の立場があること故劃一して論ずることは出來ぬ。第二に日本の戦ひの目的は、對獨逸戰の當初に於て形式實質ともに一定し、今彼れ是れと論議するにも當らぬことである。而して其目的は既に十二分に達せられて居るのである。但し既に聯合國の一員たる以上は、自國のみの立場を頑迷に固守しなければならぬと云ふ事は無い。他國の利益を尊重し、已むを得ざる場合には讓歩すべきであるが、他國の立場とも兩立し得る限りは

日本國存在の當然の主張として、戦争によりて獲得したる處は、飽まで是れが維持に努め而して是れが東洋の平和を維持する所以であるやうに、全力を傾倒すべきであつて、其以上には涉つて戦争の目的を延長することは斷じて不可なりと確信する。

## 六 自主的出兵よりも自主的平和

|| 日本須く斷乎として講和を主張せよ ||

米國からの提案に關聯して自主的出兵と云ふことが主張せられ、而して其が外交調査會の反對によつて撤回せられた事は、我々が新聞紙の報道に依つて僅かに傳承したることである。我々國民は其が果して事實であつたか否かをすら確むる機會を寸毫も與へら

れて居らぬ。況んや主張者の眞意、反對論者の論據の如何なるものなるかの如き之を推測することも困難である。唯だ我等は其の自主的てふ作語に少からぬ興味を感じたものである。誰人の作語に出づるか一向知ることの出來ぬ我々は、此作語の下に藏された眞の意味を看破する資格を有せぬものであるが、我邦が世界の表に立つて自主的に行動せよと云ふことは、言語の上丈けから云へば、如何にも共鳴せざるを得ぬことである。而して此の作語によつて一種の刺戟を與へられた我輩は、此機會に於て我邦が自主的なることの必要を更らに痛切に感ずると共に、其自主的行動は今に於ては出兵其事に非ずして、却つて講和の提議平和の力説にある可きことを深く感ぜざるを得ぬものである。我輩は國民の一人として當局者は勿論、外交調査會の人々並に各政黨に對して、自主的平和の主張の必要に就て、此際十分慎重に考慮を旋らして貰ひ度いと切望するものであり、同胞に對しては日本今日の國是を斷乎として現戦争の停止を敵味方一様に勸告し、若し其提議に應ぜざるものあれば、日本は日本の有するあらゆる力を以つて、其非を責む可きことの必要を認めて貰ひ度いと思ふものである。

## 二

自主的行動を日本が取らざるの久しいことは、我々國民は常に痛嘆に堪へざるものである。日英同盟てふ桎梏に束縛せられて、日本外務省の所在は霞ヶ關にありや、ダウニングストリートにありやの疑を惹起したことは實に度々であつた。此度の米國の提議なるものゝ真相は分らないが、今迄日本の西伯利亞出兵に極力反對して居た米國が、今度は自分の都合次第勝手に出兵するに付て、義理一遍の通知を日本に與へたものなりとの世評が誤つて居ないものとすれば、我邦外交の自主的ならざるの甚しき實に浩嘆に堪へないのである。米國で我邦を侮ること若し道路傳ふる如くでありとするならば、我々は日露戦争前の露國に對すると同様の感想を米國に對して抱く事を禁ずることが出来ない。ウキルソンを以て人道の解放者だの平和の神使だのと『バイブルウーマン』でも言ひさうな事を唱へる人々は別として、苟しくも米の飯を常食としつゝある今日の日本人は、米國の態度に對して極度の悪感を催すことを禁ずることが出来ないのである。併し乍ら

米國其ものを責める前我々は先づ翻つて自國の態度を省みなければならぬ。米國が斯くの如き態度を取る所以の最大原因は、我邦が何事に就ても自主的ならず常に所謂『御多分に洩れぬ』的態度を取りつゝあるが爲めであることは、我々國民として残念乍ら之を認めざるを得ぬのである。米國の政府が其事實を否認したと傳へられ、單に當人がペリー艦隊の一水兵たりしと稱する所の無教育なる一老人をわざ／＼日本まで引張り出して、日本中を見せ物的に引ずり廻して歓迎々々と騒ぐ處の我國民は、凡ての事に就て恰も布哇と同列にある一國ではあるまいかと思はるゝやうな態度を、米國と米國人とに對して取つて居る。我輩は米國が多くの事に於て我邦の遠く及ばざる美點長所を有して居ることを認めるに躊躇するものでない。乍併米國とさへ云へば、凡ての事に就て、日本が崇拜す可き渴仰す可きであるかのやうに考ふることも亦斷じて出来ない。が其は姑く措くとして、米國の政治家は決して日本のウキルソン信徒の言ふやうな天使でも聖人でもない。殆んど凡べての國の凡べての政治家と同じく政治家たる以上は虚言も吐くし、策略も弄する極めて俗な人々であることは之を否認す可きではない。ウキルソンは



學者なりと云ふ人があるが彼は今日は断じて如何なる意味に於ても學者ではない。矢張一個の俗なる政治家たること寺内正毅氏や犬養毅氏と異なる所はないのである。大學教授てふ無上の學者的地位に晏如たらずして大統領になつたこと其事既に彼が眞正の學者でないことを十分に證明して居るのである。ウキルソンを我山川健次郎氏と同視するは大なる誤である。

我邦が自主的ならざることの第一は、國民が物を考へるに於て自主的ならざることである。世人は日本の大學教授が西洋人の學說の受賣にのみ専らで、自發的研究の乏しいことを責めるが、物を考へるに西洋人か支那人かの助けを藉らないではやることの出來ないのは、決して我が大學教授のみの特色ではない、日本人凡ての特色である。殊に對世界の問題を考へるに至つて然りである。嘗つて政治家や外交官を評する某氏の言を聞いた、曰く、彼は感心な人である、何となれば彼は常にロンドン・タイムスの日刊を必ず通覽するからと、我輩は此言を聞いて實に噴飯を禁ぜなかつたが、タイムスを讀むは實は甚だ感心す可き事たるを後に悟つた。何となれば多くの人はタイムスをすら讀まずして、

又聞のタイムスにたよつて世界の事物を判斷して居るのだから、自分が讀んで其說に感服する人はまだ大いに感心す可き人であるのである。ウキルソンを平和の神だの、エライ學者だのと云ふ人の中にも彼の演說の外國電報の翻譯を讀んだ丈でサツサと感心して仕舞ふ人もある。彼が大學教授時代に著した著作などは一頁すらも開いて見たことなくして、彼はエライ學者なりと評する學者先生すら、我が日本國には存在して居るのである。斯くの有様であるから、政治家や外交家が獨り自主的ならざるを責める權利は實は我々日本國民には無いと言つても過言ではあるまい。否言葉の上丈けでも自主的と云ふことを言ひ出した人々に感心敬服す可き義務が却つてあるかも知れないのである。

## 三

右の次第であるから、自主的たれと主張することは實は無意味無用であるかも知れない。然り積極的に何事かやるに付いて自主的たることは今日の日本としては至難の事

であらう。然し何時迄もタイムス教徒やウキルソン信者にのみ我々の思想や我々の生活の指導を一任して置くことは甚だ迷惑な事である。機會ある毎に一歩づつ自主的行動を取ることを勉め圖らねばならぬ。幸ひ言葉丈けでも自主的と云ふことを言ひ出した人がありとするならば、我々國民は先づ其人々に向つて、最小限度の自主的行動を取つて呉れんことを註文す可きであると信ずる。而して我輩は其最小限度の自主的行動の中、今の秋に方つて一番世界の爲めになり、又日本の爲めになる事は、我邦が自主的に、先づ此度の戦争を停止して、タトへ一時なりとも平和の來る様交戰聯合國并に獨塊側に提議すること是れであると確信するものである。我輩は所謂自主的出兵なるものに全然反對するものたるは勿論、今日の場合露國に出兵することは、如何なる口實如何なる形式の下に於ても、不必要否有害であると信ずるものである。チエツヒを助けて佛國に於ける聯合國に加はらしむると云ふ事は、我邦の立場としては勿論、世界人道の上から見て寸毫も其必要なしとするものである。若干のチエツヒが加はつたとて、聯合國の兵勢の上にも其が何物を貢獻するか。我々は其價値は零であると信ずる。而して此如き姑息なる出

兵は却つて世界の爲めにも我邦の爲めにも有害であらうと思ふ。戦は眞面目な事である。藝術はエルンストなりと云ふことの眞なるよりも、戦はエルンストなり、否ならざる可からずと云ふ事の方が遙かに眞である。タトへ一人の生命なりとも、國民兵の生命は之を尊重せねばならぬ。戦と云ふことは如何なる眼を以つても厭ふ可き事である。人を殺し、人を傷け、財産を破壊し、都邑を荒し、農村を蹂躪することは、決して美事にあらず善事にあらず。唯それよりも更らに尊ばざる可からざる國の存在が之を必要とするによりて、此の悪事此の凶事が是認せられるのである。國の存在の繋からざる事の爲めには、タトへ卑賤なる國民一人の生命なりとも之を捨てさせ、敵方の極微なる兵士の一人の生命なりとも之を絶つと云ふことは、人道に決して許す可きことでない。我々は信じて居るものである。『國の爲め』と云ふ事があるから、此イヤな事も却つて我々が勇んで此に赴く事となるのである。『國の爲め』でないことが始めから明瞭なれば、良心を許るに非ざる限り、喜んで軍に従ふといふことは出来なかる可き筈である。是が國民兵存在の根本義たりとは我々の堅く信ずる所である。チエツヒ援助と云ふ事は日本國の存立に如

何の交渉を有するか我々は其は斷じて没交渉であると思ふ。然らばチエツヒ援助の爲め——眞に其積りにて——出兵——守備兵派出とは同一でない所の——すると云ふことは、我忠良なる國民兵の士氣の上に寧ろ有害な影響を與ふることゝ信ずる。チエツヒをして埃國から獨立せしむるに助力する以上朝鮮をして日本より獨立せしめんとするものがあつても之を拒む可き理由はないことになる。果してそれで宜しいのか。況んや其爲めに若しもマキシマリスト派なり其他の派なりの露國人の生命を損ずることありとせば——其は絶無と云へない——是れ口實の如何に拘らず露國——困憊の極に達せる——と露國人とを敵とするものである。人道に斷じて不可である。チエツヒ援助が人道的行爲であると稱する米國は他面に露人を苦しめることの起る可きを豫想せないのである。左様な迂濶な事はあるまい。是れ實に米國の偽善的人道の眞相を暴露する一の有力なる左券である。米國が其偽善の爲めに其責任を負ふは米國の勝手に任せて置けば宜しいとしても、我邦——少くとも米國よりも遙かに少く偽善的なる——が其仲間入りすることは迷惑千萬な話である。出兵するなら其が日本國の存立上斷じて避け難

い場合でなければならぬ。國の存立が必要とする出兵なれば、豫め兵數を限定したり、行動の範圍を限定したりするのは變な事である。日本の存立を維持するに必要な限りは如何に大規模の出兵たりとも之を厭ふ可きではない。否出來る丈け有効に出來る丈け短日月に目的を達す可き爲めには、始めより大規模の計劃を立つ可きではないか。兵を動すには姑息、限定は大禁物である、否な自滅的態度である。

## 四

日本國存立の意義から見ても、又た世界人道の上から見ても、今の秋に當つては姑息なる出兵によつて日本の士氣を殺ぐと云ふことは甚だ害がある。況んや其れが米國式偽善の御相伴たるに於てをや。自主的ならずてふ缺點を有するも偽善的——餘りに——ならずてふ長所——確かに長所なりと我々は信ずる——を有する我邦が、今や此長所を失ふ可く餘義なくせらるゝと云ふことは重大事である。一方には忠良なる軍隊の意氣を沮喪し、他方には國民を驅つて偽善の爲め犠牲たらしめることは斷じて有害の行爲で

ある。

革命前の露國、ロマノフの露國は屢々日本國の存立を危ふした。我々は此くの如き露國と協約したとて提灯行列を催した東京人の腑甲斐なさを痛嘆しつゝあつたものである。某月某日我輩は上野の山から彼の提灯行列を見物して、日本人何くにある、江戸ツ子何くにあると叫ばざるを得なかつた當夜の不愉快を、今に忘れることが出来ないものである。撃てや懲せや露西亞國をと小學生徒に歌はせた人々は、少しも變つて居らぬ同じ露國と協約したからとて萬歳ウラーを唱へよと強請する。我々日本人は生憎一つしか腸の持合せがない。政治家の御都合次第で其腸を入れ換へるわけには行かない。我等の血管を流るゝ温き血は外交官の命令次第で、其温度を上下することは到底出来ないものである。

然るに今の露國は最早日本の存立を屢々脅したロマノフの露國ではない。革命其物の正否、マキシマリストの有力無力は別問題である。兎に角今の露國は日本の存立を危ふする傾向を少しも持つて居らぬ露國である。否、大戦に疲れ惱める可憐にして同情す

可き露國である。窺鳥は獵夫之を撃たず、苟しくも武士道などと誇つて居る我日本が、此露國を更に苦めることは斷じて爲す可きではない。内田康哉氏は一切の露國出兵を不可なりとして職を辭したと世評は傳へて居る。若し其が本當なら實に立派な進退と云ふ可しと思ふ。少くとも今に於ては一切の露國出兵——他日は別問題也——を絶対に否とすることは、我々——敢て複數を用ゆる——の同感に堪へざることである。

幾日の提灯行列連は今次の出兵に對して、更らに又其腸を入れ換へて之に謳歌するかも知れないが平凡なる市民たる我々には其んな藝當は出来ない。誰が何んと言つても露國出兵は迷惑千萬と斷言せざるを得ない。

## 五

今日は日本が平和主義の急先鋒となつて、其有するあらゆる力を傾注して、各國の講和を力説す可きハイタイムであると信ずる。

聯合國も敵方も最早國の存立が必要とする丈けの戦鬪行爲は十二分盡した。佛國は

實に善く健闘奮戦した軍功第一に居る可きである。是れ佛國の存立が最も多く脅かされたからである。獨逸も實に善く戦ひ善く辛抱した。獨逸の國民は此戦争が獨逸の存立に重大に關係すと確信して居たからである。然るに英國に至つては、小しも國の存立に關係した譯ではない。勿論獨逸勝てば英國の world dominion は著しく害せられるに相違ない。然し今日の世界に於て英國一ヶ國が横行跋扈して居る事は英國以外の凡ての國の迷惑千萬とする所である。一國のみ我儘勝手に世界の事を處理す可き時期は既に已に過ぎ去つて居る。世界の中心が唯一つである時代は過去の事である。幾つかの小中心が之に代る方が人類全體の遙かに幸とす可き所である。經濟上に限つて見てもロムバート・ストリートが世界の金融財權の中心たる事は幾多の便利あると共に、又不便不都合も尠からずある。戦後紐育が世界金融の中心たるか否かと云ふが如きは、歴史を知らざる『シリィクエスチョン』である。井上正金頭取は我々の或會合に於て、日本が倫敦に代り——少くも一部分的に東洋丈けなりとも——金融の中心たる可しと主張せられたが當日の會衆多くは全部の賛成を表明しなかつた。我輩は世界金融の中心など

と云ふものゝ必要を疑ふものであつて、倫敦が中心であつたは、是れ畢竟英國が世界に横行して居る反形に外ならぬと信するものである。金融中心必要論者は英國の世界獨占が萬世不易の事實と前提するものであると思ふ。其れと同様に經濟以外に於ても英國が世界の中心たる事は、人類全體の幸福上決して必要事ではないと思ふ。英國の世界的プレスチツデが幾分なりとも打破せられると云ふ事は、人類全體の幸福から見れば甚だ歓迎す可き事である。金融は勿論財權の上でも、外交の上でも、政治の上でも其他一切の事に於て英國の羈絆から獨立したる各國の自主權が追々確立することは、聽て世界人類全體の幸福を進むる所以である。片田舎の山の中の三等切符の裏面にまで英語を刷り込む事が必要又は便利なりとせらるゝ時代の過ぎ去ることは、少くとも國民的自尊心の爲めに甚だ喜ぶ可き事である。日本人同志の手紙のやり取りに英語——而もブロークン——を書くやうな馬鹿々々しい時代の過ぎ去る事は愉快な事である。タイムスのみを新聞と心得る馬鹿の減る事は結構な次第である。文典上頭を曲げねばならぬやうな英語演説を、日本人同志の會合で得々とやつて、文明人氣取りをする人の減るのは幸福

なことである。

思はず話が横道に入つたが英國は決して國運を賭して戦ふ必要がある譯ではない。其兵勢の不振は當然の事であつて英國兵士の弱い爲め計りではない。英國の——殊に上流社會の——對戰氣分の緊張しないと云ふ苦情は殆んど毎號エコノミストやステートメントが痛論する所であるが之は責める方が無理である。我等笛吹けども汝等踊らずと言つたとて其は踊らない方が本當である。英國人に取つては恐らく戦争も一のビジネスであらう。ビジネスに熱狂は禁物である。エコノミスト記者は甚だしい感違ひをして居るものと言はざるを得ぬ。

## 六

歐洲に於ける戦争の現状は敵味方共最早決定的勝負を見るの望はない。獨逸に多くの勝味あることは明白の事實であるが然し勝利と云ふ事は言へない。又た向後此以上の成績をあげ得ようか否か甚だ疑しい。聯合國が小功を収めたと云ふが之を勝戦とす

る迄には大變な事で先づ今の處見込はないと斷言しても間違はあるまい。要するに一方の勝利によつて他方の國々の存立が脅されると云ふ危険は全く無いのである。然らば戦争繼續の理由は無くなつたものである。偽善的英米人は獨逸を全滅する迄は戦はざる可からずと口先では言つて居るが如何なる成算があつて然か言ふのか到底口先丈の事である。而して獨逸を全滅する必要其ものは寸毫もないのみならず其は世界文明の爲め怪しからぬ事である。元より獨逸が英國に代つて世界に横行するやうのことがあれば其れは毒を以て毒に代へるものであるから斷然拒まなければならぬが今の戦績では獨逸が世界を我物顔に横行する事英國の如くなると云ふ危険は無いものと言はねばならぬ。五分五分か四分六か兎に角敵味方共勝敗の決定せざること久しき以上モハヤ戦争は無意味であつて世界中の人間を苦しめ困らせて置くことは如何にも馬鹿々々しいことである。即ち今が平和を提唱するに恰好の時節と思ふ。日本の成金輩は之に反對するに相違なからうが我々は成金を利する爲めに生活の苦しみを何時迄も續くことは斷乎として謝絶せざるを得ぬ。否成金の増長は人道・上風・教・上倫・理・上甚だ宜し

## 六

くないことである。一日も早く今の成金時代に終を告げしめねば、人類の墮落は底止する所がないこととなるであらう。此點からのみ云つても戦争停止は急要事である。

## 七

英國は自國と世界とを同延長のものとなし英國の利益の害せらるゝことは、即ち世界人類一般の利益を害せらるゝことゝ同義に歸すかの如くに唱へるを常として居る。今次の戦争を英國の勝利に於て終結しないと云ふことは、慥かに英國のプレスチツヂを著しく損ずることには相違ない。翻つて英國は、これは世界一般の利益の害せらるゝことなるかの如くに言ふのである。乍去此戦争が英國の勝利を以て終らねばならぬことは、世界の利益の上から云へば、決して必要事ではない。英國のプレスチツヂの失はるゝことは英國の損に歸するには相違ないが、其れは世界全體の損に歸する事とは決して同一義ではない。獨逸の軍國主義が世界の平和を脅かすよりも、英國の南國主義海賊主義の方が、今日まで世界の平和を脅して居たこと數十倍の上に出でて居るは、少しく歴史を知

るものゝ、而して公平な判断を有するものゝ拒否し能はぬ所である。殊に我日本は今迄所謂獨逸の軍國主義なるものによりて格別の危険を蒙つた經驗は一度もない（三國干渉や膠洲灣占領は決して日本を危うからしめたとは云へない。三國干渉は獨逸が張本人であつたとしても、三國干渉であつて獨逸のみの干渉ではない。假りに一步を譲つて脅かされたことがあるとしても、其は一度か二度の事に過ぎない。然るに英國の爲めに眼に見えざる壓迫を被つた事は二度や三度ではない。英國に取つては或は獨逸は現實の事實であらうが、日本に取つては獨逸は未だ存在して居ない、却つて過去に於ては露禍、英禍殊に近頃は米禍の東漸の方が歴然たる事實である。日本を離れて世界全體として見ても、今の處『禍』と名づく可きものは獨逸ではない、寧ろ英米禍である。獨逸を全滅することは決して世界平和の必要事ではない。英國のヘゲモニーの何分なりとも滅殺せられる方が世界平和の保障としては、遙かに意義ある出來事たることは疑を容れぬ。即ち日本國存立の立場から見ても、世界全體の平和の上から見ても、獨逸を何處迄も滅ぼして仕舞ふとか、此以上苦しめるとか云ふ事は決して必要でない。必要のないのに多大の

犠牲を拂つて而も成算の甚だ乏しい戦争を繼續することは畢竟英國の利益即世界の利益なりてふ誤りたる前提を置くからの事である。我々は英國の御先棒となつて唯だ犠牲を拂はせられる丈けで、よし英國が決定的勝利を得るとしても、其は英國の利益を支持する所以たるに過ぎないので、世界全體の利益は其爲に別段に進められることのないことを知れば、今日戦争繼續の如何にも無意義な事たるを悟る可きである。我々は英國の繁榮を希ふことは英國人に次では最も熱心なるものである。又た英國に多大の優越せる點あることは十分に之を認める。乍去其繁榮其優越を維持する爲めに、世界全體に無用の苦しみを興へることを承認することは出来ぬ。平和の手段によりて此後とも英國が其大を増す事は之を希ひこそすれ決して之を沮まんとするなどの念は有たぬものであるが既に已に疲れたる我聯合軍を、更らに困憊の極に陥れてまで、英國が其野心を逞ふすることには斷乎として反對するものである。

## 八

更らに又獨逸全滅の爲めと號して米國が大げさな軍國化を進めることは、世界の平和の上から甚だ希はしからざること、云はねばならぬ。是が爲めに危険を最も多く感ずるは我々日本人である。對獨の爲と稱して充實せられる米國の軍備は、其完成の曉は、果して世界平和の保障となるか、又は其反對に世界平和のメネース(脅迫)となるかと云へば、我々は後者の方がより多くの『確らしさ』を有するものと考へるのである。充實した曉の米國の軍勢は無爲にして終るものではあるまい。其最も活躍に便なる方面に活動し來るものと思ふ可きである。活動に最も便あり最も多くの『確らしさ』のあるは、南米であり東亞細亞である。南米の小弱國と我日本とは最も多くの懸念を禁じ能はぬものである。我々は唯だ意氣地なく米國の軍備充實を羨むものではない。然し米國が今大規模の軍備擴張を實行する必要のないのに、之を取行することに對しては十分なる考慮を要する。何となれば我輩の信ずる所にては、日本は獨逸は勿論其他世界中何れの國とも其が國の存立に必要な以上は敢て戦争を辭す可きではないが、獨り米國との戦争は極度まで之を避くるに勉めなければならぬ地位に立つて居るからである。國の存立の



爲めとして米國と戦へば米國との貿易は杜絶し、其結果我國民の生活は極度の困難に陥る。獨逸と國交が絶えても國民生活上忍可からざる底の損失は見て居らぬが、米國と國交絶てば我々の日常生活は甚だしき困難に陥ることを免れぬ。在米、在哇の同胞の困難は言ふまでもないことである。即ち米國との關係は絶對的に不可忍に立到るに非ざる限り、決して之を絶つ可きではない。餘程の辛抱を敢てしても、唯戦争を避け得んが爲めに我邦は全力を盡さねばならぬ。然るに其相手たる米國が好戰國となる事は實に絶大の危険を意味するものである。最も冀はしからざる運命に日本を導くもので、其れこそ日本國存立上の重大事である。米國の軍國化の口實を奪ふだけの爲めには、今次の戦争停止は緊要の一事である。獨り日本のみでない、南米の諸小國、亞細亞の諸國、何れも此點に於ては共通の利害關係を有つものである。今次戦争の停止によりて此危険を何分にも防ぐことは、世界人類の大なる部分の利益が之を要求することゝ云ふ可きである。而して米國の國民に取りても、其軍國的迷夢より覺むることは、今の秋に方りて甚だ必要である。言論の自由の極端に制限せられ、大學教授が一回の查問を経ずして、其言論の爲

めに解職せられ、或は演説會場より直ちに獄に投ぜられ（コレハ近頃有名な經濟學者ニ  
アリングス、コット教授の蒙つた運命である）、自由平和を國是とする米國、今や化して一  
大專制國、一大壓制國となつて居るのは、米國民の爲めに實に同情に堪へぬ事である。ウ  
キルソンを人類の解放者だと崇拜する人々は、他面に於て米國人が今やオードクラシー  
の鐵鎖につながれつゝあることを知らないのである。現戦争の停止は米國々民其人の  
爲めにも緊要の要求たる可きである。

## 九

歐洲の國民は英國の魔術が張つた網に囚はれて居て、空想の夢から目覺めることの出来ぬ憐れなる状態にある。伊國人の如き其好適例と思ふ。軍國主義を滅ぼす爲めて空虚なる夢の爲めに、自ら却つて最惡の形に於ける軍國主義の鬼となつて居る。此迷夢を覺まし、世界の人類を、現戦争の悲惨から救ひ出すことを勉む可き人は、未だ歐米には出て來ぬ。實に氣の毒千萬な次第である。是れ豈日本が自主的に眞面目に熱誠を傾倒して



して居るは獨立國のまきに耻づ可き所である。日本自ら起つて戦争に終を告げしむる工夫にこそ心を用ゆ可きである。

ペテンと策略とにかけては、我政治家我外交家は到底歐米人の足下にも及ばない。唯だ右の如く誠心誠意を以つて、一の策略なく、一の懸引なく、斷乎として自主的に世界平和戦争停止を主張する位のことには我政治家でも出來得ることゝ信ずる。乍去其爲めに、國民が一人の如くに一致して我當局者の後援とならなければ出來ぬ。即ち先づ國民中に此輿論を喚起することが第一の仕事であると信ずる。是れ我輩が此一文を公にする所以である。讀者讀書生午睡の囁言として一笑に附することなくんば幸なり。

附言。嘗て本誌(中外)に掲げた(拙論本書一の八)及『太陽』に寄せた『何の爲に戦ふ』(本書二の五)に對し畏友吉野法學博士及室伏高信君から懇切な反駁を賜つたが、其後の米國の行動は予輩に代つて十二分に兩兄に答を呈した次第であると信ずるから、無用の答文を繰返へす事を省く。而して本論は右二文を延長したものであるから、序の折に兩兄が此文に一瞥を與へられて、卑見の存する所を看取せらるゝことあらば光榮至極と存するものである。『シヤパン・アドヴァータイザー』及『極東時報』の批評に對して答文を略する理由も祖同様

である。

殆んど凡べての國の凡べての政治家は嘘を平氣で吐くものであることは、右二拙文以後英國に於て、ロイド・ジョージが重大な虚言を吐いたとて大騒ぎをした事實——タイムスも之を傳へて居る——が、我輩の爲めに有力に裏書をして呉れた。如何に熱心なロイド・ジョージと雖ども、此一事は如何とも打消すことは出來ないのである。『予は大概な政治家は嫌いだ、獨りロイド・ジョージに至つては、之を好愛することを禁ずる能はず』と『貧乏物語』の附録に於て告白して居らるゝ河上博士も、右の出來事には定めし痛く興を醒ましたことであらう。思ふに此次はウキルソンの番となるであらう。

||大正七年二月談話同三月『太陽』掲載||

## 七 對抗か順應か

||資本的侵略主義に抗し、眞正のデモクラシーを發揚せよ||

對抗と云ひ、順應と云ふも、要するに程度の問題である。日本が如何に世界の大局に拮抗して行かうと思つても、夫れが世界の大局である以上は、全然之を拒否する事は不可能である。結局順應となる外に途は無からう。然し一切萬事を抛つて世界の大局に順應する外は無いかと云ふに、夫れでは無論可けない。大體に就ては順應する外は無いにしても、日本は日本獨特の立場から順應しつゝも、亦之に對抗して行かなければならない。所で果して日本が世界の大局に對抗して行けるか何うか、即ち可能不可能の問題が茲に起つて来る。又對抗して行くとしても、果して何の程度まで行くかといふ程度の問題も起つて来る。我輩は向後の日本は一方に於て資本的侵略主義に極力對抗すると共に、他面佛蘭西と相並んで眞正のデモクラシー(舊式の其れを排斥して)を發揚することを以て、日本の使命であると信ずるものである。以下少しく略説を加へて見よう。

## 二

今度聯合軍が得た大勝利は、聯合國側の軍事上の勝利ではない事は、我輩が『勝者は誰か』に於て論じて置いた通りである。今次の戦争に勝つたものは實に獨逸の革命である。我邦には英米論者の口眞似をして、今回の世界戦争はオートクラシー對デモクラシーの戦であると言つたものが澤山あつた。従つて此の大勝利を觀てデモクラシーの萬歳を唱へて居る。獨逸を仆したものは確にデモクラシーではある。然しそれは決して英米論者の所謂デモクラシーでもなければ、従つて亦我邦論者の所謂デモクラシーでもない。英米論者の説くデモクラシーなるものは政治的のデモクラシーである。而して夫は資本主義のデモクラシーである。capitalistic political democracyである。而して之れがオートクラシーに勝つたのであるかど云ふに決して左様ではない。獨逸に勝つたのはデモクラシーはデモクラシーだが、夫れは social democracy である。社會民主主義である。我邦の論者は此のソシアルデモクラシーが勝つてばよいとは決して思つて居たのでは

あるまい。此ソールデンラシーの勝利の爲めに萬歳を祝して居るのではあるまい。

所で新に起つて獨逸を仆したソールデンラシーにしても、或は又從來の英米のキアピタリスチックデモクラシーにしても、我輩は之を Pseudo-democracy (假面的民主主義) と呼ぶに躊躇しない。何故なれば、ソールデンラシーは即ちプロレタリア階級のみでデモクラシーで全人民の其でないから、本當のデモクラシーとは云はれない。即ち彼等自らソールデンラシーと云ふ形容詞を付けて居る。其意はプロレタリアン (第四階級) と云ふことである。而して其手段は階級戦争である、即ち全デモスを二分して相争はしめようとするものである。他方に英米のデモクラシーは今日與へられた政治組織の上にてのデモクラシーである。而して今日與へられた政治組織は資本主義の組織である。他日或は變つて來るかも知れないが、現在のまゝでは全人民を包含したデモクラシーではない。所有階級のデモクラシーである。理窟の上では全人民のデモクラシーと言つて居るけれども、夫れは畢竟抽象論で實際の事實は局部的のものである。

世界平和の克復は洵に結構で、又獨逸の軍國主義が仆れたのも洵に結構だけれども、それと共に我々は更に恐るべき強敵を迎へることになつたのを忘れてはならない。之れ我輩が世界文明の危機と叫ぶ所以である。我々は資本的侵略主義の極盛と、而して其反對毒たる社會民主主義に面せなければならぬのである。資本的デモクラシーは當然の結果として經濟的侵略主義である。もつと判り易く言へば海賊主義である。我々は今プロレタリアの跋扈と海賊の跋扈との間に挟み討ちにならんとして居るのである。之れが近き將來の世界を脅かす危険である。日本は此大勢に對して唯順應するのみで済まされ得るか。一切萬事を抛つて順應すべきであるか。否斷じて否。我輩は曰ふ、日本は否、世界の全體は斷じて之れに對抗せなければならぬと。

## 三

平和克復後の世界の形勢は如何なるかと言ふに、英米は今度の拾つた勝利で益々資本的軍國主義、經濟的侵略主義を逞しうするであらう。之れは單なる想像ではない事實で

ある。既に其端緒は一昨年巴里に開かれた經濟會議に見出される。即ち戦後獨逸に對して大々的經濟戰を開始するといふのである。之れやがて海賊主義の進化したもので、之れによつて利するものは英國である。米國である。今や軍國的獨逸は登れて世界の *lance of power* がなくなつた。獨逸のある間は此海賊主義に對抗して勢力の均衡が保たれて居たが獨逸がなくなつたので世界は今やアングロサクソン人種の跳梁に委ねられんとしてゐる。日本が如何に海軍を擴張しても夫れは鯨の齒軋りに過ぎず逆も拮抗し得るものではない。其資本的軍國主義、海賊主義は戰の上でなく、所謂經濟戰來らんとすと云ふ是れである。併し乍ら經濟戰とは虚名である。敵なき戰とは無意味である。畢竟は軍國主義オートクラーンを退治するといふ美名の下に資本的侵略主義が今回の勝利によつて完全に確保されるに至つたのである。ウエルソンの主張する海の自由は到底英國の贊成するものではない。之れ海賊主義が滅びぬ端的の證左で、海賊主義と海の自由とは到底相一致する事の出来ぬものである。

戦後獨逸が經濟界に大々的ダムピングをやるに相違ないから、今から大に其對應準備

をしなければならぬと言つて、人の好い日本を始め聯合諸國を誘つたのは之れ實に資本が世界を恣に横行せんとする準備に外ならない。戦後獨逸がダムピングすることの無いのは判り切つた事實である。然るに我邦の識者學者、否専門の經濟學者の大多數が之れを受け賣りして、『戦争の經濟が終つて經濟の戦争が始まる。而して夫れは獨逸が戦時中に蓄積した物品をダムピングする事によつて其幕が切つて落される』と言つて居る。之れ大なる愚論で、久しい以前から我輩が駁撃を加へて已まなかつた處である。戦後のダムピングの可能を信ずるのは獨逸を買被るの甚だしいもので、一方にあれ程戦争を続けながら、他方戦後ダムピングを試むる爲めに物質を蓄積し得る譯が無い。然るに我邦の論者は獨逸を憎み嫌つて居た者でも、その戦後のダムピングの可能を信じて疑はなかつた。之れ彼等が常に言ふところと反對に心中恐獨病に罹つて居つたのと、他面獨逸國民の心事を誤解したのにと因る。獨逸は戦後のダムピングを用意しつゝ、戦争を戦つたものではない。曲直は別として、一旦戦争を始めたからは舉國一致で戦争に全力を傾注したのである。何の餘裕あつてか戦後の資本的侵略主義の準備を爲し得やうか。

之れ我輩が彼等論者に極力反對した論據である。然し我邦の學者殆ど其大半は我輩に反對であつた。而して今は何うであるか。獨逸には今やダムピングを行ひ得る餘力は一寸だつて無い。之れ獨逸の真相を了解する事が出来なかつたのにも據るが他面又資本的侵略主義者が爲にする所あつて獨逸の怖るべきを描き出し、世界の人民を欺いた詭計にまんまと乗せられた愚論である。

## 四

獨逸のソーシャルデモクラシーが今日のやうな勝利を得た事は、我々の夢想だもしなかつた所である。此點に於て先見の明を誇り得る者は、堺利彦君一人位であらう。今後の世界は此社會的デモクラシーと資本的デモクラシーとの對抗と云ふ大いなる危険に脅かされんとしつゝある。之に對して我日本は端的に如何に此間に處するかを考へねばならぬ。夫れには順應でなくして對應、否對抗的でなければならぬ。即ち資本的デモクラシーに對抗すると同時に亦社會的デモクラシーに對抗して行かなければならぬ。

追記。河上博士は我輩が社會民主主義撲滅せざるべからずと主張す。而して世界列國の中之れと云はる。此れは匪妄であること此の文を以て證せられたし。而して世界列國の中之れに對抗して、世界の文明を健全なる基礎の上に樹たしめる大使命を帯びて居る國は、日本と佛蘭西のみである。

佛蘭西も昔は侵略主義の國であつたが、ナポレオンの一敗後は國是を變て、殆ど全く非侵略的の國となつた。故に世界の經濟競争に於て退歩した姿のあるのは事實である。十九世紀は資本的侵略の時代である。此時代に非侵略的の佛國が人後に落ちたのは已むを得ない。然し夫れが今は大いによい事になつた。英國の資本的軍國主義に對して、武斷的并に經濟的軍國主義を以て勃興して來た獨逸は崩壞して社會民主國とならんとしつゝある。露西亞も亦社會民主國となつた。然し佛蘭西は假令戦争に滅茶苦茶に敗れても獨逸若くは露西亞の様な革命は來ないと思ふ。獨逸に革命の起つたのは軍國主義武斷的侵略主義の爲め斗りではない、資本的軍國主義に激勵せられたからである。否武斷的軍國主義は資本的侵略主義の武器たるに過ぎない。然るに佛蘭西には其何れも無い。だから戦争に敗けても佛國民が社會民主化する形勢は起らないであらう。但し

此點は或は我輩の佛國に對する知識不十分で、判斷を誤つて居るかも知れない。若し然りとすれば佛蘭西も駄目であるが、今の所では軍國主義の國家でないから、其反動としての社會民主運動の力は微弱である。即ち英米の如き資本的侵略主義の國となる運命は來さうもなく、而して然る以上は社會民主國となることはあるまい。社會民主運動は資本的侵略主義に對する反對毒(antidote)である。毒を以て毒を制するものである。此二つの文明以外に獨特の佛蘭西文明なるものが依然として存して居るのは、世界の爲めに洵に慶ぶべき事である。今迄は英獨の間に挟まれて進出の困難なりし佛蘭西が、擲後大に活躍すべきは我輩の疑を容れぬ處である。

## 五

遑く佛蘭西と呼應して、世界の文明を其危殆の中から拯ふべき新しき力を有し、又之れに向つて努力すべき義務を有するのは我日本である。日本は如何なる意味に於ても過去に於ては侵略國ではなかつたし、又現に侵略國ではない。支那に於ける利權の獲得と

か西比利亞に於ける利權の獲得とかいふことがあつたが、あれは經濟的侵略主義の發露として見るも多寡が知れて居る。國民の心理としても、國政の方針としても、日本は斷じて侵略國ではない。故に之に對する反動として社會民主主義の國となることは斷じて無いと我輩は確信する。

日本に社會主義は起るであらう。然し夫れを起すべき最も有力なる動機たる資本的侵略主義は殆どない。故に極めて近い將來に於て有力に起るべき具體的條件が無い。資本的侵略主義にして行はれんか、如何に官憲が言論思想を壓迫し取締を嚴重にしても、其反對毒たる社會民主主義の大に勢力を得べきは必然であつて、逆も防ぎようが無いのである。だから社會民主主義の有力に起るを禦ぐ一番効果ある方法は、言論思想の壓迫や取締にあらず、日本が資本的侵略主義を採用せぬ事之れである。此外に途はない。是れは社會民主主義者自らも認める所と信ずる。かの西比利亞出兵とかバイカル奪取とかを主張する愚論家は、自ら識らずして最も有力なる社會民主主義擴張の傳道を爲しつゝあるものであると斷言して憚らない。蓋し危険なる思想家とは彼等愚論家の謂であ



斯く言へばとて我輩は決して我邦に富の分配の不公平が無いと云ふのでは無い。又我邦に社會問題が無いと云ふのではない。然し社會民主主義は是等ばかりから起るのではない。歐米諸國が常に社會主義に手古摺つて居るのは畢竟資本的侵略主義の代償として甘受せねばならぬ所以に外ならぬ。英國の如き大資本主義の國では社會主義さへ起らなければいゝがといふ事にのみ屈託して居る。ロイドジョージズムが盛んに行はれて居るのは英國の大いに進歩した證據だか然し其大部分は資本的侵略主義の生産費と看做すべきである。資本的侵略主義を全く捨てれば大袈裟にロイドジョージズムを行ふことはあるまい。反對に資本的侵略主義を行つて居ては如何に旺んにジョージズムを施しても偏に足らざるを憂ふるの外は無い。黒岩周六氏の言葉に倣つて言へば、ロイドジョージズムは或意味で蛭蝮蛇である。資本的侵略主義といふ蛇を吞んで苦しくて堪らず、ジョージズムといふ蛭蝮蛇を吞んだが腹具合は依然として宜くならない。結局は社會民主主義と云ふ反對毒を吞む外はないだらう。我輩が會て河上博士にもう大抵

ロイドジョージに興を醒まされたであらうと言つたのも一面此意味を含んで居る。斯う云つたからとて、我輩は社會政策が不要であるといふのでは無い。唯資本的侵略主義をやリつゝ社會政策を行つたつて、際限が無いといふ事を力説せんとするのみである。獨逸の國家社會主義なるものと同じ筆法である。獨逸帝國が出来て極力經濟的侵略主義を行ひ初めたから、其代償として是非盛んに國家社會主義を行ふ必要が起つたのである。故に獨逸に於ける社會政策は最早行詰りに成つたとは十數年來我輩の唱へて居た所である。然るに今度の革命は此問題を一掃した。少くとも今日までの獨逸の社會政策なるものは社會民主國たる獨逸に於ては無意味となつたは疑ふ可からざる所である。

## 六

今度の勝利でデモクラシー萬歳と云ふ事になり、此大勢に日本も順應して行かなければならぬといふ議論は一應尤もであり、而して他面に於て社會政策（反對毒として）存

い)を大に行はなければならぬことも勿論であるが然し我々は何よりも先に我々の立脚地を熟々考へて観なければならぬ。今度勝たデモクラシー即ちソールデモクラシーが入つて来るのは困るが資本的侵略主義の入つて来ることは更に更に大に危険である。資本的侵略主義が入つて来れば其の反対毒たる其代價たる其生産費たる社會民主主義の大に盛んになることは火を賭るよりも明白な事實である。されば我々は全然新たな立場から我々の主張する社會政策我々の主張するデモクラシーの出發點及び到着點を考へ、而して仔細に其内容を吟味しなければならぬのである。

新しい意味のデモクラシーとは即ち言葉の本義の要求する通り、全人民真正にデモス全體を包含した所の眞箇のデモクラシーである。此デモクラシーは日本の國本を合理的に解釋すれば確に相合致するものである。英米の資本主義的デモクラシーや獨露の勞働階級のみを認めたソールデモクラシーでなく、全國民を包含したデモクラシーである。而して夫れは如何なる意味に於ても侵略的であつてはならぬ。武斷的に侵略主義であつてはならぬ斗りではなく、經濟的にもまた侵略的であつてはならぬのである。

日本が如何に侵略主義を執つても夫れは鯨の齒軋りに過ぎない。如何に海軍を擴張しても到底英米の海軍に拮抗すべくもない。如何に陸軍を充實しても、一度び英米の海軍に封鎖されば、獨逸と同一の運命に陥らざるを得ない。大陸続きの獨逸ですら封鎖されては餓餓を免れる事は不可能であつた。況んや我邦の如き四面環海の一島國では、如何に軍器糧食を自給自足し得るにしろ、一朝封鎖されば手足の出しようがない。だから我邦が武斷的侵略主義を取つても全く駄目である。官僚軍閥の徒が如何に苦心努力するとも其れは出來つこのない相談である。

武斷的侵略主義の起る事は不可能にしても、尙ほ茲に夫れより更に恐ろしい經濟的侵略主義資本的軍國主義の邪道が横はつて居る。此頃多く發表される戦後の經濟論や戦後の日本國是論を觀るに、軍事上の戦争は今や漸く其終局を告げたが戦後の世界には平和の戦争が來らんとして居るから、我邦も之に應ずる準備をせねばならぬと主張して居る。即ち我邦は戦後如何にも資本的に武装した侵略國となる外に途が無いやうに説く者が多い。我輩は之れを最も大いなる危険思想と思ふのである。日本に於ては社會主

義が危険思想となる處は斷じて無いと吾輩は信ずる。學理に基かぬ社會主義論などは少しも恐るゝに足りない。學理に基いた社會主義なら學理を以て説伏することが出来る。思想は思想を以て、言論は言論を以つてのみ打ち勝ち得べきである。他に之に打ち勝つ武器は無い。近頃永田秀次郎氏は日本の國本を危くするデモクラシトは一つもないと言はれたさうであるが、我輩も永田氏の口吻を眞似て、日本の國本を危くする社會主義は一つもないと斷言して憚らない（但し日本が資本的侵略國となれば社會主義は此侵略國に對しては危険思想となるは勿論である）。之に反して我國本を危くする者は實に資本的侵略主義の傳道である。此資本的侵略主義の傳道こそ如何にも尤もらしい議論で、物事も深く考へる習慣の無い人達を捲き込むに極めて都合の好いお爲ごかしの議論であるだけ、それだけに伴ふ危険は大きい。況んや此傳道には財力や金力が伴ふ。獨逸などに於て石炭山の所有者が世界に事を起して石炭の賣れ行きを増進させんが爲めに、私かに金を散じて外交上の問題を繁くさせるに努めたと同じく、日本が經濟的侵略主義を執る事は假令不可能であつても、此主義を傳道してさへ居れば資本家は利益を受

ける故に彼等は喜んで其の傳道に力でも資本でも人でも供給するだらう。之れ程怖るべき危険はない。

殊に近來成金が跋扈して、高い月給を出して官吏の古手や思想の行き詰りになつた學者をどん／＼買ひ入れる。然るに世間では彼等の立場を區別しないで、相變らずの學者相變らずの識者と信ずるを好い事にして其肩書を振舞はし、經濟的軍國主義を鼓吹するものが起るかも知れない。否現にその若干の例を我輩は知つて居る。實に危険恐るべしである。何々博士の戦後經濟論などまことしやかに振れ出すと、聞く聽衆は眞面目の學理に基ける議論と思ふが、何ぞ知らん其れは成金の番頭として資本階級の利益を擁護する資本的軍國主義の説法であらうとは。我輩は嚮後機會のある毎に斯くの如き危険論の撲滅に力を盡くす心算である。

## 七

三二事が萬事である。嚮後日本にも經濟的軍國主義體の好い海賊主義の説法傳道が大

に起るかも知れぬ。世界の大大勢に對應する前に、我々は先づ斯の如き愚論に對抗して、之が絶滅を圖らなければならぬ。幸に未だ成金が出来たと云つても小規模なもので、之を英米の夫れに比べれば多寡が知れたものである。完全な資本的軍國主義の洗禮を受けざるまでに至つて居ない。又日本の政治も悉く之が爲めに毒されて了まつたと云ふのではないから、日本は先づ國內に起らんとする資本的軍國主義を驅逐しなければならぬ。而して夫れと共に世界に向つては、一方資本的侵略主義の横行に對抗し、他方全人民を包含する大デモクラシーの本源地として遠く佛蘭西文明と呼應して、一部のプロレタリアのみを本位とする社會的デモクラシーに對抗しなければならぬ。之れ即ち世界文明に貢獻する上に於て、我日本が荷へる最も重大なる使命であると思ふ。

## 八

斯くの如き大使命を果す爲めには我々は先づ近頃流行の思想の統一とか、國體擁護とかいふ極めて危険有害なる頑迷思想を排除しなければならぬ。國民が先づ賢くならな

ければ折角の大使命も之れを果す事は出来ない。國民を健全なる思想の上に置かなければ、到底何事も出来ない。國民を賢くし國民の思想を健全にするには、先づ言論思想の發揚を圖らなければならぬ。それには完全に言論思想の自由を保障しなければならぬ。政府當局者が露獨の過激思想の流入を禦ぐと稱して、言論思想に壓迫を加へたならば却て恐るべき危険を促進する結果となる外は無い。言論は言論を以て、思想は思想を以て戦ふべし。資本的軍國主義を退治すると云ふのは、政治的手段に據つて之を爲すの謂ではない。飽くまで言論思想の力に據つて撲滅すべきである。

健全なる思想健全なる言論を保障する爲めには、言論者に精神上並びに物質上の自由安全を確保せねばならぬ。例へば大學教授の身分の保障、其待遇を好くする如きは、此點から考て單なる物質的問題でなく、日本の使命を實現する上に重大なる意義のある事である。有識者學者が續々相率ゐて成金の番頭手代となるのは最も恐るべき事である。資本的侵略主義の大小の傳道者を人爲的に作り出すのを防ぐには、大學教授を始め言論思想の指導者たるものゝ地位身分を保障するのが第一に必要である。

然し日本がこの光榮ある大使命を果すには獨力では出來ない。我等の信ずる處に據ると世界の文明を其危機から救ひ得るものは世界列國の中で日本の外には唯佛蘭西あるのみ。我邦は一方國內に於て大に言論思想の自由安全を確保すると同時に他方佛蘭西と呼應して共に人類文明の爲に盡くさなければならぬ。世界文明の健全なる發展を希望する上から云つて今後佛蘭西の學問が我邦に大に勃興するのは極めて必要である。獨逸の今日までの學問は著るしく經濟的帝國主義侵略的世界政策の影響を受けて居た。獨逸の哲學がさうである。社會學がさうである。政治學がさうである。就中我輩の専門とする經濟學に至つては其影響が最も甚だしい。今は或意味で獨逸の經濟學の破産時代である。所謂經濟階段を巧妙に拵へて帝國に統一した國民經濟組織を經濟生活發展の當然の歸結とした獨逸の經濟學は畢竟海賊主義に對抗する獨逸の帝國的陸賊主義を一面に於て辯護する有力な學說であつた。夫れが今破産した。我々は或意味で

頼るべき師を失つた譯である。今後は獨力に日本の特別の使命を考へた學問を建設しなければならぬ。唯順應する計りではいけない。今後大に勃興すべき佛蘭西の學問と密接な關係を有つて日本の立場から對應して行かねばならぬ。是れ吾輩が世界に於ける日本の使命なりと信ずる所である。

大正七年十二月六日談話全八年一月『中央公論』掲載

### 三 改造途上の世界經濟

#### 一 英國中心の世界經濟と其改造